

対象校No.  
注4

学校コード F126310107662  
注3

設置年度 令和 7年度

計画の区分： 学部の学科の設置  
注1

届出

注2  
京都芸術大学 通信教育部芸術学部環境デザイン学科

【認可】 設置に係る設置計画履行状況報告書  
(改正後大学設置基準適用)

学校法人瓜生山学園  
令和7年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名	教学支援二課
職名・氏名	カヂユウ キタムラ シユン 課長・北村 俊
電話番号	075-791-9125 (内線: 21070)
(夜間)	075-791-9122
e-mail	kyoumu@office.kyoto-art.ac.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。  
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に  
( )書きにて、設置時の旧名称を記載してください。  
例) 〇〇大学 △△学部 □□学科  
(旧名称: ◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))  
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。  
例)  
・大学の設置の場合: 「〇〇大学」  
・学部の設置の場合: 「〇〇大学 △△学部」  
・学部の学科の設置の場合: 「〇〇大学 △△学部 □□学科」  
・短期大学の学科の設置の場合: 「〇〇短期大学 △△学科」  
・大学院設置の場合: 「〇〇大学大学院」  
・大学院の研究科の設置の場合: 「〇〇大学大学院 〇〇研究科」  
・大学院の研究科の専攻の設置等の場合: 「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」  
・通信教育課程の開設の場合: 「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。  
なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、  
当該番号を記載してください。  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/mext\\_01087.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html)
- 4 対象校No.については、「【別紙】令和7年度AC報告書提出対象学科等.pdf」より、  
該当番号を記載してください。

# 目次

通信教育部芸術学部

＜環境デザイン学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	16
4. 既設大学等の状況	17
5. 教育研究実施組織の状況	18
6. 附帯事項等に対する履行状況等	36
7. その他全般的事項	46

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

学校法人瓜生山学園

## (2) 大学名

京都芸術大学

## (3) 調査対象大学等の位置

〒606-8271

京都市左京区北白川瓜生山2-116

(注)・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。

・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	( トクヤマ ユタカ ) 徳山 豊 (平成26年7月)		
学長	( サトウ タク ) 佐藤 卓 (令和7年4月)		
学部長	( イシガミ ヒロユキ ) 石神 裕之 (令和3年4月)		
学科長等	( トノイ タマキ ) 殿井 環 (令和7年4月)		

(注)・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を

( )書きで記入してください。

(例) 令和6年度に報告する内容 → (6)

令和7年度に報告する内容 → (7)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正）するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
  - ・様式は、令和2年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合(令和7年度までの6年間)ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
  - ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「留学」の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
  - ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
通信教育部芸術学部 環境デザイン学科 学士(芸術)	美術関係	4年	200人	2年次 10人 3年次 500人 4年次 0人	1,830人	-	2年次編入と3年次編入の入学定員を設定している。下段カッコ内の左が2年次、右が3年次で記載している。

- (注) 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を( )書きで記入してください。
- ・基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
  - ・「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1)又は(その2の2))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
  - ・学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。(学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。)

(5) - 調査対象学部等の入学者の状況

区分	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		春季入学以外の 学期区分について	収容定員 充足率	収容定員 充足率 (控除後)	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期				
A 入学定員	人 ( ) [ ]	人 ( ) [ ]	人 ( ) [ ]	人 ( ) [ ]	人 ( ) [ ]	人 ( ) [ ]	人 ( ) [ ]	人 ( ) [ ]	人 ( ) [ ]	人 ( ) [ ]	200人 200 (510)		-	0.70倍	-	
志願者数	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	182 (10)(336)	( ) [ ]	春季入学以外の 入学時期と 入学定員内訳			
受験者数	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	182 (10)(336)	( ) [ ]				
合格者数	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	178 (10)(332)	( ) [ ]				
B 入学者数	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	177 (10)(327)	( ) [ ]				
入学定員超過率 B/A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.7					

- (注) 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
  - ・( )内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(( ))書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
  - ・転入学生は記入しないでください。
  - ・[ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
  - ・学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
  - ・「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
  - ・報告年度に春季入学以外の学期区分の設定を予定している場合は、「春季入学以外の学期区分について」で「春季入学以外の学期区分を設ける予定」を選択するとともに、下欄に、入学時期と入学定員の内訳(予定を含む)を記載してください。(春季入学以外の学期区分の設定を予定していない場合は「-」を選択。)
  - ・「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。算出に当たっては、大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和8年度開設用)IV.33収容定員の充足状況をご確認ください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
  - ・「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の収容定員充足率」を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
  - ・「(5) - ② 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等」の「平均入学定員超過率」及び「収容定員充足率」は、「4 既設大学等の状況」AC対象学部学科等の倍率と一致しますので、留意して計算してください。

(5) - 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	-	-	-	-							177	-	
	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ - ]	[ - ]	
	( - )	( - )	( - )	( - )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	
2年次			-	-	-	-					-	-	
			[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ - ]	[ - ]	
			( - )	( - )	( - )	( - )	( )	( )	( )	( )	( - )	( - )	
3年次					-	-	-	-			327		
					[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ ]	[ ]	[ - ]	[ - ]	
					( - )	( - )	( - )	( - )	( )	( )	( - )	( - )	
4年次							-	-	-	-	-	-	
							[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	
							( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	
計											504		
	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ - ]	[ ]	
	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( - )	( )	

(注)・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・ [ ]内には、**留学生の状況**について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ ( )内には、**留年者の状況**について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ **編入学生や転入学生も含めて**記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
- ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

( 5 ) - 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[ ]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和2年度	- 人	- 人	令和2年度	- 人	- 人	
令和3年度	- 人	- 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
令和4年度	- 人	- 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
令和5年度	- 人	- 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	- 人	- 人	
令和6年度	- 人	- 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	- 人	- 人	
			令和6年度	- 人	- 人	
令和7年度	- 人	- 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	- 人	- 人	
			令和6年度	- 人	- 人	
			令和7年度	- 人	- 人	
合 計		0 人		0 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)  
 ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。  
 ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。  
 ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生、転科生も含めて記入してください。  
 ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「修学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
 (記入項目例)・修学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

( 5 ) - 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\#VALUE!} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\#VALUE!} = \boxed{-} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\#VALUE!} = \boxed{-} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\#VALUE!} = \boxed{-} \%$$

【令和6年度】

$$\frac{\text{令和6年度の退学者数(a)}}{\text{令和6年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\#VALUE!} = \boxed{-} \%$$

【令和7年度】

$$\frac{\text{令和7年度の退学者数(a)}}{\text{令和7年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\#VALUE!} = \boxed{-} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<通信教育部芸術学部 環境デザイン学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数		基幹教員等の配置					の専任教員(前年度)
				必修	選択	教員	准教員	講師	助教	手	
総合教育科目	英語1A	1前・後									1
	体育実技	1前・後									1
	メディア論への階段	1前・後									2
	哲学への階段	1前・後									1
	考古学への階段	1前・後									2
	民俗学への階段	1前・後									1
	自然学への階段	1前・後									1
	都市環境への階段	1前・後									1
	文学研究への階段	1前・後									1
	映画研究への階段	1前・後									2
	日本史への階段	1前・後									1
	社会学への階段	1前・後									1
	オンライン授業入門	1前・後									2
	人間科学への階段	1前・後									3
	はじめての共通科目	1前・後									2
	身体と表現	1前・後									2
	数と世界	1前・後									2
	名著を読む	1前・後									1
	入門デッサン1	1前・後									7
	入門デッサン2	1前・後									9
	入門デッサン3	1前・後									7
	入門デッサン4	1前・後									4
	入門デッサン5	1前・後									7
	基礎デッサン1	1前・後									7
	基礎デッサン2	1前・後									4
	基礎デッサン3	1前・後									4
	基礎デッサン4	1前・後									6
	基礎デッサン5	1前・後									4
	基礎デッサン6	1前・後									4
	伝統芸術基礎(伝統芸能)	1前・後									1
	伝統芸術基礎(文案)	1前・後									4
	伝統芸術基礎(茶の湯)	1前・後									2
	伝統芸術基礎(煎茶)	1前・後									1
	伝統芸術基礎(落語)	1前・後									1
	ことばと表現	1前・後									11
	論述基礎	1前・後									13
	外国語1	1前・後									3
	古典日本語	1前・後									2
	情報	1前・後									4
	音楽	1前・後									4
	地域環境論	1前・後									4
	生態学	1前・後									2
	都市デザイン論	1前・後									5
	色彩と形	1前・後									1
	心理学	1前・後									4
政治学	1前・後									1	
経済学	1前・後									2	
社会学	1前・後									4	
宗教学	1前・後									5	
列島考古学	1前・後									1	
日本史	1前・後									1	
アジア史	1前・後									2	
西洋史	1前・後									2	
文化研究1	1前・後									3	
文化研究2	1前・後									2	
文化研究3	1前・後									2	
京都を学ぶ	1前・後									1	
地域を探る	1前・後									1	
詩学への案内	1前・後									3	
哲学への案内	1前・後									3	
学際的な知への案内	1前・後									2	
日本の憲法	1前・後									1	
地域環境学演習	1前・後									2	
地域文化学演習	1前・後									1	
デッサン	1前・後									7	
小計(65科目)				0	95	0	6	4	2	0	130

【令和7年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数		基幹教員等の配置					の専任教員(前年度)
				必修	選択	教員	准教員	講師	助教	手	
総合教育科目	英語1A	1前・後									1
	体育実技	1前・後									1
	メディア論への階段	1前・後									1
	哲学への階段	1前・後									1
	考古学への階段	1前・後									1
	民俗学への階段	1前・後									1
	自然学への階段	1前・後									1
	都市環境への階段	1前・後									1
	文学研究への階段	1前・後									1
	映画研究への階段	1前・後									2
	日本史への階段	1前・後									2
	社会学への階段	1前・後									1
	オンライン授業入門	1前・後									1
	人間科学への階段	1前・後									3
	はじめての共通科目	1前・後									2
	身体と表現	1前・後									2
	数と世界	1前・後									2
	名著を読む	1前・後									1
	入門デッサン1	1前・後									10
	入門デッサン2	1前・後									9
	入門デッサン3	1前・後									8
	入門デッサン4	1前・後									4
	入門デッサン5	1前・後									8
	基礎デッサン1	1前・後									6
	基礎デッサン2	1前・後									4
	基礎デッサン3	1前・後									4
	基礎デッサン4	1前・後									6
	基礎デッサン5	1前・後									4
	基礎デッサン6	1前・後									5
	伝統芸術基礎(伝統芸能)	1前・後									1
	伝統芸術基礎(文案)	1前・後									4
	伝統芸術基礎(茶の湯)	1前・後									3
	伝統芸術基礎(煎茶)	1前・後									1
	伝統芸術基礎(落語)	1前・後									1
	自然史フィールドワーク入門	1前・後									1
	キャリアデザインI	1前・後									1
	キャリアデザインII	1前・後									1
	K-POPダンス実践1	1前									3
	K-POPダンス実践2	1後									3
	ことばと表現	1前・後									9
	論述基礎	1前・後									14
	外国語1	1前・後									2
	古典日本語	1前・後									2
	情報	1前・後									5
	音楽	1前・後									4
地域環境論	1前・後									3	
生態学	1前・後									2	
都市デザイン論	1前・後									5	
色彩と形	1前・後									2	
心理学	1前・後									5	
政治学	1前・後									1	
経済学	1前・後									1	
社会学	1前・後									4	
宗教学	1前・後									5	
列島考古学	1前・後									1	
日本史	1前・後									1	
アジア史	1前・後									2	
西洋史	1前・後									2	
文化研究1	1前・後									3	
文化研究2	1前・後									2	
文化研究3	1前・後									4	
京都を学ぶ	1前・後									1	
地域を探る	1前・後									1	
詩学への案内	1前・後									3	
哲学への案内	1前・後									4	
学際的な知への案内	1前・後									3	
日本の憲法	1前・後									1	
地域環境学演習	1前・後									3	
地域文化学演習	1前・後									1	
デッサン	1前・後									7	
小計(70科目)				0	95	0	5	3	3	0	153

科目区分	授業科目の名称	配当年度	主要授業科目	単位数			基幹教員等の配置					の専任教員等(1名以下)	
				必修	選択	自由	教	准教	講	助	助		
専門教育科目	芸術教養基礎	1前・後		1				2	1				1
	著作権を学ぶ	1前・後		1									1
	美術と芸術学への大きな階段	1前・後		1									1
	コラージュ・デッサン	1前・後		2			1	1					5
	立体造形演習1	1前・後		2									2
	立体造形演習2	1前・後		2									2
	色彩表現基礎	1前・後		2									4
	形態表現基礎	1前・後		2			1	1					3
	美学概論	1前・後		2						1			4
	写真論1	1前・後		2							1		2
	写真論2	1前・後		2							1		3
	都市概論	1前・後		2									3
	住宅概論	1前・後		2									5
	建築史1(近代)	1前・後		2									8
	建築史2(西洋)	1前・後		2									5
	建築史3(日本)	1前・後		2									4
	建築環境工学	1前・後		2									2
	建築設備	1前・後		2									3
	建築材料	1前・後		2							1		3
	建築生産	1前・後		2									4
	建築法規	1前・後		2									3
	構造力学1	1前・後		2									6
	構造力学2	1前・後		2									4
	造園史1(日本)	1前・後		2									3
	造園史2(西洋)	1前・後		2									2
	環境の保全と計画1	1前・後		2			1	1					2
	環境の保全と計画2	1前・後		2			1	1					3
	ランドスケープデザイン原論1	1前・後		2			1						1
	ランドスケープデザイン原論2	1前・後		2				1					3
	マーケティング概論	1前・後		2									3
	ブランディングデザイン論	1前・後		2									4
	インテリア計画論1	1前・後		2									2
	インテリア計画論2	1前・後		2									2
	空間構成材料	1前・後		2									2
	生活空間デザイン史	1前・後		2									2
	芸術理論1	1前・後		2			1			1			3
	芸術理論2	1前・後		2			1			1			3
	知的財産権研究	1前・後		2									1
	芸術史講義(日本)1	1前・後		2					2	1			8
	芸術史講義(日本)2	1前・後		2					2	1			8
	芸術史講義(アジア)1	1前・後		2			1						2
	芸術史講義(アジア)2	1前・後		2			1						2
	芸術史講義(ヨーロッパ)1	1前・後		2				1					4
	芸術史講義(ヨーロッパ)2	1前・後		2				1					4
	芸術史講義(近現代)1	1前・後		2						1			4
	芸術史講義(近現代)2	1前・後		2						1			4
	芸術史講義(日本)3	1前・後		2				1					2
	芸術史講義(日本)4	1前・後		2				1					2
	芸術史講義(アジア)3	1前・後		2									2
	芸術史講義(アジア)4	1前・後		2									2
芸術史講義(ヨーロッパ)3	1前・後		2				1					3	
芸術史講義(ヨーロッパ)4	1前・後		2				1					3	
芸術史講義(近現代)3	1前・後		2			1						2	
芸術史講義(近現代)4	1前・後		2			1						2	
地域芸術実践1	1前・後		2			1						4	
地域芸術実践2	1前・後		2			1						8	
小計(56科目)				0	109	0	5	6	4	0	0	126	

科目区分	授業科目の名称	配当年度	主要授業科目	単位数			基幹教員等の配置					の専任教員等(1名以下)	
				必修	選択	自由	教	准教	講	助	助		
専門教育科目	芸術教養基礎	1前・後		1					1	1	1		1
	著作権を学ぶ	1前・後		1									1
	美術と芸術学への大きな階段	1前・後		1									1
	コラージュ・デッサン	1前・後		2			1		0	1			5
	立体造形演習1	1前・後		2									2
	立体造形演習2	1前・後		2									2
	色彩表現基礎	1前・後		2									4
	形態表現基礎	1前・後		2					1	0	1		5
	美学概論	1前・後		2							0	0	7
	写真論1	1前・後		2							0	0	2
	写真論2	1前・後		2							0	0	2
	都市概論	1前・後		2									4
	住宅概論	1前・後		2					1				4
	建築史1(近代)	1前・後		2							1		7
	建築史2(西洋)	1前・後		2									4
	建築史3(日本)	1前・後		2									5
	建築環境工学	1前・後		2									3
	建築設備	1前・後		2									3
	建築材料	1前・後		2							0		3
	建築生産	1前・後		2									4
	建築法規	1前・後		2									3
	構造力学1	1前・後		2									4
	構造力学2	1前・後		2									4
	造園史1(日本)	1前・後		2									3
	造園史2(西洋)	1前・後		2									2
	環境の保全と計画1	1前・後		2			1	1					2
	環境の保全と計画2	1前・後		2			0	1					4
	ランドスケープデザイン原論1	1前・後		2			1		1				2
	ランドスケープデザイン原論2	1前・後		2				1	1				3
	マーケティング概論	1前・後		2						1			4
	ブランディングデザイン論	1前・後		2									3
	インテリア計画論1	1前・後		2									2
	インテリア計画論2	1前・後		2									2
	空間構成材料	1前・後		2									2
	生活空間デザイン史	1前・後		2									2
	芸術理論1	1前・後		2			1			0			3
	芸術理論2	1前・後		2			1			0			7
	知的財産権研究	1前・後		2									1
	<b>美術史基礎</b>	<b>1前・後</b>									1		3
	芸術史講義(日本)1	1前・後		2						1	0		8
	芸術史講義(日本)2	1前・後		2						1	0		8
	芸術史講義(アジア)1	1前・後		2			1						2
	芸術史講義(アジア)2	1前・後		2			1						2
	芸術史講義(ヨーロッパ)1	1前・後		2				1					4
	芸術史講義(ヨーロッパ)2	1前・後		2				1					4
	芸術史講義(近現代)1	1前・後		2						1			5
	芸術史講義(近現代)2	1前・後		2						1			6
	芸術史講義(日本)3	1前・後		2				1					2
	芸術史講義(日本)4	1前・後		2				1					2
	芸術史講義(アジア)3	1前・後		2									1
芸術史講義(アジア)4	1前・後		2									1	
芸術史講義(ヨーロッパ)3	1前・後		2				1			0		5	
芸術史講義(ヨーロッパ)4	1前・後		2				1			0		5	
芸術史講義(近現代)3	1前・後		2			1						4	
芸術史講義(近現代)4	1前・後		2			1						2	
地域芸術実践1	1前・後		2			1						6	
地域芸術実践2	1前・後		2			1						8	
小計(57科目)				0	109	0	7	2	3	0	0	138	



科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			基幹教員等の配置					の専任教員(≧1名)の配置
				必修	選択	自由	教	准教	講	助	助	
資格科目	博物館実習1(事前指導)	4前		1			1					
	博物館実習2(館園実習)	4前		1			1					
	博物館実習3(事後指導)	4後		1			1					
	博物館概論(学芸員課程)	1前・後		2			1		1			21
	博物館経営論(学芸員課程)	1前・後		2			1					13
	博物館資料論(学芸員課程)	1前・後		2			1		1			16
	博物館情報・メディア論	1前・後		2			1					9
	博物館生涯学習概論	1前・後		2			1					12
	博物館教育論	1前・後		2			1					15
	博物館資料保存論	1前・後		2			1			1		10
	博物館展示論	1前・後		2			1		1			13
小計(11科目)	-	-	19				1		1		66	
合計(229科目)	-	-	148	226	0	9	11	7	1		501	
卒業要件及び履修方法												
専門教育科目の必修・選択科目から60単位以上修得のうえ、総修得単位124単位以上(うち面接授業およびメディア授業から30単位以上)修得すること(ただし、専門教育科目の必修・選択科目のうち、学部共通専門教育科目から12単位以上かつ学科専門教育科目から48単位以上修得すること)。												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			基幹教員等の配置					の専任教員(≧1名)の配置
				必修	選択	自由	教	准教	講	助	助	
資格科目	博物館実習1(事前指導)	4前		1			1					
	博物館実習2(館園実習)	4前		1			1		1	1		
	博物館実習3(事後指導)	4後		1			1		1			
	博物館概論(学芸員課程)	1前・後		2			1		1			21
	博物館経営論(学芸員課程)	1前・後		2			1					10
	博物館資料論(学芸員課程)	1前・後		2			1		1			13
	博物館情報・メディア論	1前・後		2			1					10
	博物館生涯学習概論	1前・後		2			1					12
	博物館教育論	1前・後		2			1					12
	博物館資料保存論	1前・後		2			1		1	1		7
	博物館展示論	1前・後		2			1		1			10
小計(11科目)	-	-	19	0	2	0	1				70	
合計(235科目)	-	-	148	207	19	9	8	7	1		538	
卒業要件及び履修方法												
専門教育科目の必修・選択科目から60単位以上修得のうえ、総修得単位124単位以上(うち面接授業およびメディア授業から30単位以上)修得すること(ただし、専門教育科目の必修・選択科目のうち、学部共通専門教育科目から12単位以上かつ学科専門教育科目から48単位以上修得すること)。												

科目区分	授業科目の名称	配当年度	主要授業科目	単位数		基幹教員等の配置					の専任教員数(≧1名)
				必修	選択	教	准教	講	助	助	

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)  
 ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。  
 ・ なお、設置認可時又は届出時、改正前大学設置基準(令和4年10月1日施行前)に基づき、対象学部等を設置している場合、改正後大学設置基準等(令和4年10月1日施行)の適用以前については、改正前様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。  
 ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。  
 ・ 「基幹教員等の配置」欄は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等の配置」としてください。  
 ・ 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員(助手を除く)」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員(助手を除く)」としてください。  
 ・ 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の授業科目全て(基幹教員(大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は「専任教員」)以外の教員(助手を除く)(改正後大学設置基準等の適用以前は兼任、兼任教員)が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。  
 ・ その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字の赤字**としてください。  
 ・ なお、設置認可時又は届出時、改正前大学設置基準等(令和4年10月1日施行前)に基づき、対象学部等を設置している場合、**認可時又は届出時」の「主要授業科目」欄は削除し、「基幹教員等の配置」欄は「専任教員等の配置」、「基幹教員以外の教員(助手を除く)」欄は「兼任、兼任」としてください。**その上で、各年度については、「基幹教員(大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は「専任教員」)」数は、認可時又は届出時の「専任教員」数との比較において変更となっている箇所、「基幹教員以外の教員(助手を除く)(大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は「専任教員以外の教員(助手を除く)」)」数は、認可時又は届出時の「兼任、兼任」数との比較において変更となっている箇所を**赤字の赤字**としてください。  
 ・ (専任教員から基幹教員に変更したことをもって赤字とする必要はありません。)  
 ・ 履修希望者がいなくなったために未開講となつた科目についても科目名の後に「(未開講)」として記入してください。  
 ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。  
 ・ 不要な年度(令和6年度開設であれば令和5年度以前)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)  
 ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。  
 ・ 指定規則の改正により、新旧がキリウムを並行して実施している場合は、旧がキリウムについても記載してください。  
 ・ その場合は、新がキリウムを全て記載したのち、最後に記載欄を追加し、年度ごとに記載してください。  
 ・ 新旧がある年度については、その別がわかるように各年度の右側に(新)又は(旧)と追記してください。  
 (例:記載順) [認可時又は届出時]→[令和7年度(新)]→[令和6年度(新)]→[令和5年度(新)]→[令和4年度(旧)]→[令和7年度(旧)]→[令和6年度(旧)]

(1) ①-②授業科目表に関する変更内容

【令和7年度】

<p>・ 共通科目のうち、カリキュラムポリシーに照らし学生に特に受講を希望してもらいたい科目2科目「テッサン」「はじめての共通科目」を主要科目に指定。</p> <p>・ 「自然史フィールドワーク入門」「キャリアデザインI」「キャリアデザインII」「K-POPダンス実践1」「K-POPダンス実践2」「美術史基礎」を新設。 2021年以降、18歳～22歳くらいの若年層の入学が増え、若年層のニーズに応える科目として「キャリアデザイン」や実技科目「ダンス」「フィールドワーク」を新設。 これらの科目の2025年度の履修状況では若年層の方が多くなっている。</p> <p>・ 資格科目単位数：当該科目群は自由選択科目だったが、届出時に「選択」に計上していたため「自由選択」へ修正</p> <p>・ 届出時時点より開設年度までに准教授が教授に昇格したため、基幹教員等の配置が下記科目において変わった。 日本史への階段：「教授1」「准教授1」から「教授2」へ オンライン授業入門：「准教授1」から「教授1」へ 列島考古学：「准教授1」から「教授1」へ 日本史：「准教授1」から「教授1」へ 京都を学ぶ：「准教授1」から「教授1」へ</p> <p>・ 届出時時点で着任予定だった教員(准教授)の辞任により教員(講師)を採用したため、基幹教員等の配置が下記科目において変わった。 入門テッサン1：「准教授1」から「講師1」へ 入門テッサン2：「准教授1」から「講師1」へ 入門テッサン5：「准教授1」から「講師1」へ 基礎テッサン5：「准教授1」から「講師1」へ コラージュ・テッサン：「准教授1」から「講師1」へ 形態表現基礎：「准教授1」から「講師1」へ テッサン：「准教授1」から「講師1」へ</p> <p>・ 開設初年度の実態に即し、配置教員数を見直し担当者数を下記科目で変更した。</p> <p>総合教育科目 はじめての共通科目：「准教授2」から「教授1」、「講師2」から「講師1」 メテオ学への階段：「その他3」から「その他1」へ 入門テッサン1：「その他7」から「その他10」へ 入門テッサン3：「その他7」から「その他9」へ 入門テッサン5：「その他7」から「その他8」へ 基礎テッサン1：「その他7」から「その他6」へ 基礎テッサン4：「准教授1」から「准教授0」へ 基礎テッサン6：「講師0」から「講師1」、「その他4」から「その他5」へ 伝統芸術基礎(茶の湯)：「その他2」から「その他3」へ ことばと表現：「准教授1」から「講師1」へ 論述基礎：「その他13」から「その他14」へ 外国語1：「その他3」から「その他2」へ 古典日本語：「准教授1」から「教授0」、「教授0」から「教授1」へ 情報：「その他4」から「その他5」へ 音楽：「教授1」から「教授0」、「その他0」から「その他1」へ 地域環境論：「その他4」から「その他3」へ 生態学：「講師0」から「講師1」へ 色彩と形：「その他1」から「その他2」へ 心理学：「その他4」から「その他5」へ アジア史：「准教授2」から「准教授0」へ 西洋史：「准教授1」から「准教授0」へ、「その他0」から「その他2」へ 哲学への案内：「その他3」から「その他4」へ 学際的な知への案内：「准教授1」から「准教授0」へ、「その他2」から「その他3」へ 地域環境学演習：「その他2」から「その他3」へ</p> <p>学部共通科目 芸術教養基礎：「教授2」から「教授1」、「講師0」から「講師1」へ 形態表現基礎：「その他3」から「その他5」へ 美学概論：「講師1」から「講師0」、「その他4」から「その他7」へ 写真論1：「講師1」から「講師0」へ 写真論2：「講師1」から「講師0」、「その他3」から「その他2」へ 都市概論：「その他3」から「その他4」へ 住宅概論：「教授2」から「教授1」、「その他5」から「その他4」へ 建築史1(近代)：「講師0」から「講師1」へ、「その他8」から「その他7」へ 建築史2(西洋)：「その他5」から「その他4」へ 建築史3(日本)：「その他4」から「その他5」へ 建築材料：「講師1」から「講師0」へ 構造力学1：「その他6」から「その他4」へ 環境の保全と計画1：「その他0」から「その他2」へ 環境の保全と計画2：「教授1」から「教授0」、「その他3」から「その他4」へ ランドスケープデザイン原論1：「准教授0」から「准教授1」へ ランドスケープデザイン原論2：「その他1」から「その他2」へ 芸術理論1：「准教授1」から「准教授0」、「その他1」から「その他3」へ 芸術理論2：「准教授1」から「准教授0」、「その他3」から「その他7」へ 美術史基礎：科目新設「准教授1」、「その他3」 芸術史講義(日本)1：「准教授2」から「准教授1」、「講師1」から「講師0」、「その他8」から「その他9」へ 芸術史講義(日本)2：「准教授2」から「准教授1」、「講師1」から「講師0」、「その他8」から「その他9」へ 芸術史講義(アジア)2：「その他1」から「その他2」へ 芸術史講義(ヨーロッパ)2：「その他4」から「その他5」へ 芸術史講義(近現代)1：「その他4」から「その他5」へ 芸術史講義(近現代)2：「その他4」から「その他6」へ 芸術史講義(アジア)3：「その他2」から「その他1」へ 芸術史講義(アジア)4：「その他2」から「その他1」へ 芸術史講義(ヨーロッパ)3：「講師1」から「講師0」、「その他3」から「その他5」 芸術史講義(ヨーロッパ)4：「講師1」から「講師0」、「その他3」から「その他5」 芸術史講義(近現代)3：「その他2」から「その他4」 地域芸術実践1：「その他4」から「その他6」</p>
--

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数		基幹教員等の配置					の注 記 （ 教 員 手 続 等 に 関 し て は 別 添 付 書 類 を 参 照 す ）
			必修	選択	教	准	講	助	助	
科目区分	授業科目の名称	配当年度	必修	選択	教	准	講	助	助	の注 記 （ 教 員 手 続 等 に 関 し て は 別 添 付 書 類 を 参 照 す ）
	学科専門教育科目									
	環境デザイン概論【建築】									「その他6」から「その他8」へ
	環境デザイン【建築】									-1:「講師0」から「講師1」へ
	環境デザイン【建築】									-2:「その他5」から「その他6」へ
	環境デザイン【建築】									-3:「准教授1」から「准教授2」へ
	環境デザイン【建築】									-1:「その他6」から「その他7」へ
	環境デザイン【建築】									-2:「その他6」から「その他7」へ
	環境デザイン【建築】									-3:「その他7」から「その他8」へ
	環境デザイン【建築】									-2:「その他4」から「その他6」へ
	環境デザイン【建築】									-1:「その他10」から「その他12」へ
	環境デザイン【建築】									-2:「准教授0」から「准教授2」へ
	環境デザイン【建築】									-3:「その他6」から「その他7」へ
	環境デザイン【建築】									-1:「その他4」から「その他6」へ
	環境デザイン【建築】									-3:「その他3」から「その他5」へ
	環境デザイン【建築】									-4:「その他4」から「その他5」へ
	環境デザイン【建築】									-5:「その他4」から「その他5」へ
	デザイン基礎1(建築)									「その他17」から「その他19」へ
	デザイン基礎2(建築)									「その他17」から「その他19」へ
	環境デザイン基礎1(建築)									「その他14」から「その他18」へ
	環境デザイン基礎2(建築)									「その他14」から「その他19」へ
	環境デザイン演習【建築】									-1:「その他16」から「その他20」へ
	環境デザイン演習【建築】									-2:「その他16」から「その他20」へ
	環境デザイン演習【建築】									-1:「その他12」から「その他17」へ
	環境デザイン演習【建築】									-2:「その他14」から「その他17」へ
	環境デザイン演習【建築】									-1:「その他14」から「その他17」へ
	環境デザイン演習【建築】									-2:「その他14」から「その他17」へ
	環境デザイン演習【建築】									IV:「その他0」から「その他2」へ
	環境デザイン【ランドスケープデザイン】									-1:「その他10」から「その他15」へ
	環境デザイン【ランドスケープデザイン】									-2:「その他6」から「その他8」へ
	環境デザイン【ランドスケープデザイン】									-3:「その他7」から「その他9」へ
	環境デザイン【ランドスケープデザイン】									-2:「その他2」から「その他4」へ
	環境デザイン【ランドスケープデザイン】									-1:「その他2」から「その他5」へ
	環境デザイン【ランドスケープデザイン】									-2:「その他2」から「その他3」へ
	環境デザイン【ランドスケープデザイン】									-3:「その他7」から「その他8」へ
	環境デザイン【ランドスケープデザイン】									-3:「その他1」から「その他2」へ
	環境デザイン【ランドスケープデザイン】									-2:「その他5」から「その他9」へ
	環境デザイン【ランドスケープデザイン】									-3:「その他3」から「その他2」へ
	環境デザイン【ランドスケープデザイン】									-4:「その他2」から「その他4」へ
	卒業制作(ランドスケープデザイン)									「その他10」から「その他11」へ
	デザイン基礎1(ランドスケープデザイン)									「その他3」から「その他4」へ
	環境デザイン基礎1(ランドスケープデザイン)									「その他4」から「その他2」へ
	環境デザイン演習【ランドスケープデザイン】									-1:「その他3」から「その他4」へ
	環境デザイン演習【ランドスケープデザイン】									-2:「その他4」から「その他5」へ
	環境デザイン演習【ランドスケープデザイン】									-1:「その他4」から「その他3」へ
	環境デザイン演習【ランドスケープデザイン】									-1:「その他2」から「その他3」へ
	空間演出デザイン									-1:「その他1」から「その他3」へ
	空間演出デザイン									-3:「その他1」から「その他2」へ
	空間演出デザイン									-3:「その他1」から「その他2」へ
	空間演出デザイン									-3:「その他2」から「その他3」へ
	空間演出デザイン									-2:「その他1」から「その他2」へ
	空間演出デザイン									-3:「その他1」から「その他2」へ
	空間演出デザイン									-3:「その他1」から「その他2」へ
	空間演出デザイン									-9:「教授1」から「教授0」へ
	デザイン基礎2(空間演出デザイン)									「教授1」から「教授0」へ
	空間演出デザイン演習									-1:「その他7」から「その他6」へ
	空間演出デザイン演習									-2:「その他7」から「その他5」へ
	空間演出デザイン演習									-2:「その他4」から「その他3」へ
	空間演出デザイン演習									-1:「その他3」から「その他5」へ
	空間演出デザイン演習									「その他0」から「その他2」へ
	資格科目									
	博物館実習1(事前指導)									「講師0」から「講師1」へ
	博物館実習2(館内実習)									「講師0」から「講師1」へ
	博物館実習3(事後指導)									「講師0」から「講師1」へ
	博物館経営論(学芸員課程)									「その他13」から「その他10」へ
	博物館資料論(学芸員課程)									「その他16」から「その他13」へ
	博物館情報・メディア論									「その他9」から「その他10」へ
	博物館教育論									「その他15」から「その他12」へ
	博物館資料保存論									「その他10」から「その他7」へ
	博物館展示論									「その他13」から「その他10」へ

(注)・2(1)-④ 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年度の変更、基幹教員等の配置の変更、  
**主要授業科目の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など**)を簡潔書きで記入してください。  
 変更がない年度は「特になし」と記入してください。  
 ・変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。また、改正後大学設置基準(令和4年10月1日施行)の適用により、専任教員から基幹教員に変更した場合(例:「専任教員 教授1」から「基幹教員 教授1」に変更)や、兼任・兼担教員から基幹教員以外の教員に変更した場合(例:「兼任教員1」から「基幹教員以外の教員1」に変更)については、記入しないでください。  
 ・不要な年度(令和6年度開設であれば令和5年度以前)の表は適宜削除してください。  
 ・指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 ( A )	必修	選択	自由	計	
94 科目	135 科目	0 科目	229 科目	94 科目 [0]	130 科目 [ 5]	11 科目 [11]	235 科目 [6]	

- (注)・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム（新カリキュラム）の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム（旧カリキュラム）の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

### (3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

(注)・配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

- ・履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
- ・教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
- ・専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
- ・該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

### (4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

(注)・設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

- ・教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
- ・専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
- ・該当がない場合は「廃止の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

### (5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

--

(注)・授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{229} = \boxed{0} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

### 3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	借上面積 ・18,501㎡(運動場) ・321.08㎡(瓜生山校他) 借入期間:60年 ・4,102.16㎡(外苑キャンパス) 借入期間:20年 京都芸術大学附属高等学校(通信制)と共用(収容定員630名) 認可保育園こども芸術大学(必要面積174.9㎡)と共用(収容定員60名)			
	校舎敷地	86,513.69㎡	6,927.50㎡	720.00㎡	94,161.19㎡				
	その他	35,810.58㎡	0㎡	0㎡	35,810.58㎡				
	合計	122,324.27㎡	6,927.50㎡	720.00㎡	129,971.77㎡				
(2) 校舎	専 用	65,376.62㎡	4,503.90㎡	2,293.91㎡	72,174.43㎡	借上面積 ・外苑キャンパス3,096.89㎡ 借入期間:20年 ・大阪府庁キャンパス466.92㎡ 借入期間:5年 京都芸術大学附属高等学校(必要面積1,200㎡)と共用(収容定員630名) 認可保育園こども芸術大学(必要面積128.04㎡)と共用(収容定員60名)			
	(61,476.62㎡)	(4,503.90㎡)	(2,293.91㎡)	(68,274.43㎡)					
(3) 教室・教員研究室		教室	254室	教員研究室	49室	大学全体			
(4) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕		学術雑誌 〔うち外国書〕		機械・器具 点	標本 点	学部等単位での特定不能なため、大学全体の数	
		冊	電子図書 〔うち外国書〕	種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕				
	通信教育学部 環境デザイン学科	171,647〔19,171〕 (173,058〔19,236〕)	0〔0〕 (0〔0〕)	1,192〔136〕 (1,182〔137〕)	213〔156〕 (231〔156〕)	0 0	0 0		
	計	171,647〔19,171〕 (173,058〔19,236〕)	0〔0〕 (0〔0〕)	1,192〔136〕 (1,182〔137〕)	213〔156〕 (231〔156〕)	0 0	0 0		
(5) スポーツ施設等	スポーツ施設		講堂		厚生補導施設				
	0㎡		0㎡		3,282.86㎡				
(6) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	教員1人当り研究費等:大学全体。教育研究経費ではなく、人件費の「研究手当」として1人当り300千円を支給
		教員1人当り研究費等	300千円	300千円	図書購入費	131,201千円	10,087千円	10,087千円	
	共同研究費等	27,794千円	27,794千円	設備購入費	852,000千円	734,000千円	734,000千円	共同研究費等:大学全体	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書購入費等:大学全体;図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費(運用料)を含む	
		353千円	323千円	323千円	323千円	0千円	0千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学経常費補助金、資産運用収入、雑収入							設備購入費等:大学全体

(注)・設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)又は(その1の3)に準じて作成してください。

(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び

「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

・「(4)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には報告年度の5月1日現在の数値を記入してください。

・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(6)」を「備考」に赤字で記入してください。

なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。

・校舎等建物の計画の変更(校舎の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

・高等専門学校については「(3)教室・教員研究室」欄の「教員研究室」は記載不要です。

・国立大学については「(6)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	京都芸術大学										収容定員充足率 0.7倍以下 の学科数	1	収容定員充足率 1.15倍以上 の学科数	5
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	収容定員 充足率	収容定員 充足率 (控除後)	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所在地	備考			
	年	人	年次 人	人		倍	倍	年度	年度					
芸術学部	4	1,110	3年次 12	4,070	-	1.00	-	令和7	平成3	-	令和7年度入学定員変更(1,050 1,110)			
アートプロデュース 学科	4	0	3年次 1	0	学士 (芸術)	-	-	-	平成16	京都市左京区北白 川瓜生山2-116	令和6年度募集停止。3年次編入は令和8年度募集停止			
歴史遺産学学科	4	0	3年次 1	0	学士 (芸術)	-	-	-	平成12	同上	令和6年度募集停止。3年次編入は令和8年度募集停止			
映画学科	4	90	3年次 1	342	学士 (芸術)	0.97	-	令和6	平成19	同上	令和6年度入学定員変更(80 90)			
舞台芸術学科	4	90	3年次 1	302	学士 (芸術)	0.98	-	令和6	平成19	同上	令和6年度入学定員変更(60 90)			
美術工芸学科	4	210	3年次 1	876	学士 (芸術)	0.94	-	令和6	平成12	同上	令和6年度入学定員変更(170 210)			
こども芸術学科	4	30	3年次 1	122	学士 (芸術)	0.91	-	-	平成19	同上				
キャラクターデザイ ン学科	4	200	3年次 1	738	学士 (芸術)	0.98	-	令和5	平成19	同上	令和5年度入学定員変更(90 200)			
情報デザイン学科	4	240	3年次 1	782	学士 (芸術)	1.03	1.01	令和7	平成12	同上	令和7年度入学定員変更(180 240)			
空間演出デザイン学 科	4	60	3年次 1	242	学士 (芸術)	1.03	1.02	-	平成12	同上				
環境デザイン学科	4	70	3年次 1	252	学士 (芸術)	1.11	1.06	令和6	平成12	同上	令和6年度入学定員変更(55 70)			
プロダクトデザイ ン学科	4	75	3年次 1	242	学士 (芸術)	1.04	1.02	令和6	平成23	同上	令和6年度入学定員変更(45 75)			
マンガ学科	4	0	0	0	学士 (芸術)	-	-	-	平成23	同上	令和5年度募集停止。3年次編入は令和7年度募集停止			
文芸表現学科	4	45	3年次 1	172	学士 (芸術)	1.10	1.04	令和6	平成23	同上	令和6年度入学定員変更(40 45)			
通信教育部芸術学部	4	2,550	2年次 30 3年次 3,050	11,130	-	1.58	-	令和5 令和7	平成10	京都市左京区北白 川瓜生山2-116	令和5年度入学定員変更(650 1,410) 3年 次編入 930 1,970 令和7年度入学定員変更(1,410 2,550) 3 年次編入 1,970 3,050			
芸術学科	4	200	2年次 10 3年次 350	1,200	学士 (芸術)	1.81	-	令和5 令和7	平成10	同上	令和5年度入学定員変更(100 130 3年次編 入160 260 ) 令和7年度入学定員変更(130 200) 3年次 編入260 350			
美術科	4	300	2年次10 3年次 400	1,440	学士 (芸術)	1.70	-	令和7	平成10	同上	令和7年度入学定員変更(150 300) 3年次編入260 400			
デザイン科	4	0	0	2,740	学士 (芸術)	2.49	-	令和5 令和7	平成10	同上	令和5年度入学定員変更(170 800) 3年次 編入280 950 令和7年度募集停止。			
芸術教養学科	4	500	3年次 650	2,540	学士 (芸術)	1.26	-	令和5 令和7	平成25	同上	令和5年度入学定員変更(230 330) 3年次 編入230 500 令和7年度入学定員変更(330 500) 3年次 編入500 650			
環境デザイン学科	4	200	2年次 10 3年次 500	710	学士 (芸術)	0.70	-	-	令和7	同上	令和7年度学科設置			
文化コンテンツ創造 学科	4	1,350	3年次 1,150	2,500	学士 (芸術)	0.96	-	-	令和7	同上	令和7年度学科設置			
大学全体														

(注)・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校(以下「大学等」という。)について、既に設置している学部等(短期大学、高等専門学校にあっては学科等)の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(大学院、専攻科及び別科を除く)  
 なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。  
 ・記載項目以外、保護をかけています。不要な行は、「非表示」設定としてください。また、記載する必要がない学科種の記載欄については、「入学定員超過率」及び「収容定員充足率」が0.7倍以下又は1.15倍以上の学科数を記入する項目を「-」とした上で、「非表示」設定としてください。  
 ・学部/学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。  
 ※「入学定員を定めている組織」ごとに、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。  
 ・履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。  
 ・本年度A Cの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。  
 ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。  
 開設後、完成年度を迎えていない学科等については、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記載してください。  
 算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和8年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。  
 ・「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。  
 なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。  
 ・「収容定員充足率(控除後含む)」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。  
 また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず太字にしてください。当該設定は、学科のみとし、学部及び専攻を太字にする必要はありません。  
 ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。  
 ・「所在地」及び「備考」欄については、セルの結合ではなく、書式設定より設定の上、文字サイズ変更を行ってください。  
 詳しくは、本シート右に記載のコメント機能で操作方法を案内していますのでご参照ください。

5 教育研究実施組織の状況

<通信教育部芸術学部 環境デザイン学科>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
基(主専)	教授	上田篤 <令和7年4月> 修士(工学)
		空間演出デザイン概論 空間演出デザイン -2 空間演出デザイン -1 空間演出デザイン -2 空間演出デザイン -1 空間演出デザイン -2 空間演出デザイン -3 空間演出デザイン -4 空間演出デザイン -6 卒業制作(空間演出デザイン) デザイン基礎1(空間演出デザイン) 空間演出デザイン演習 -1 空間演出デザイン演習 -1 空間演出デザイン演習 -2
基(主専)	准教授	川合健太 <令和7年4月> 学士(美術)
		空間演出デザイン -3 空間演出デザイン -3 空間演出デザイン基礎1 空間演出デザイン演習 -2
基(主専)	准教授	殿井環 <令和7年4月> 修士(工学)
		環境デザイン概論[建築] 環境デザイン[建築] -1 環境デザイン[建築] -2 環境デザイン[建築] -3 環境デザイン[建築] -1 環境デザイン[建築] -2 環境デザイン[建築] -3 デザイン基礎1(建築) 環境デザイン演習[建築] -2 環境デザイン演習[建築] -2

【令和7年度】

教員区分	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
基(主専)	教授	上田篤 令和7年4月 修士(工学)
		空間演出デザイン概論 空間演出デザイン -2 空間演出デザイン -1 空間演出デザイン -2 空間演出デザイン -1 空間演出デザイン -2 空間演出デザイン -3 空間演出デザイン -4 空間演出デザイン -6 卒業制作(空間演出デザイン) デザイン基礎1(空間演出デザイン) 空間演出デザイン演習 -1 空間演出デザイン演習 -1 空間演出デザイン演習 -2 <del>空間演出デザイン演習 -2</del>
基(主専)	准教授	川合健太 令和7年4月 学士(美術)
		空間演出デザイン -3 空間演出デザイン -3 空間演出デザイン基礎1 空間演出デザイン演習 -2 <del>空間演出デザイン演習 -2</del>
基(主専)	准教授	殿井環 令和7年4月 修士(工学)
		環境デザイン概論[建築] 環境デザイン[建築] -1 環境デザイン[建築] -2 環境デザイン[建築] -3 環境デザイン[建築] -1 環境デザイン[建築] -2 環境デザイン[建築] -3 デザイン基礎1(建築) 環境デザイン演習[建築] -2 環境デザイン演習[建築] -2

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
基(主専)	准教授	稲田多喜夫 <令和7年4月> 学士(美術)
		環境の保全と計画2 ランドスケープデザイン原論2 環境デザイン概論[ランドスケープデザイン] -1 環境デザイン[ランドスケープデザイン] -2 環境デザイン[ランドスケープデザイン] -3 環境デザイン[ランドスケープデザイン] -1 環境デザイン[ランドスケープデザイン] -2 環境デザイン[ランドスケープデザイン] -3 環境デザイン[ランドスケープデザイン] -1 環境デザイン[ランドスケープデザイン] -2 環境デザイン[ランドスケープデザイン] -3 環境デザイン[ランドスケープデザイン] -1 環境デザイン[ランドスケープデザイン] -2 環境デザイン[ランドスケープデザイン] -3 環境デザイン[ランドスケープデザイン] -1 環境デザイン[ランドスケープデザイン] -2 環境デザイン[ランドスケープデザイン] -3 環境デザイン[ランドスケープデザイン] -1 環境デザイン[ランドスケープデザイン] -2 環境デザイン[ランドスケープデザイン] -3 環境デザイン[ランドスケープデザイン] -1 卒業制作(ランドスケープデザイン) 環境デザイン演習[ランドスケープデザイン] -1 環境デザイン演習[ランドスケープデザイン] -1 環境デザイン演習[ランドスケープデザイン] -2 環境デザイン演習[ランドスケープデザイン]
基(主専)	准教授	平野章博 <令和7年4月> 修士(建築学)
		卒業制作(建築デザイン) デザイン基礎2(建築) 環境デザイン演習[建築] -2 環境デザイン演習[建築]
基(主専)	講師	岡本正人 <令和7年4月> 修士(工学)
		空間演出デザイン -1 空間演出デザイン -3 空間演出デザイン -1 空間演出デザイン -2 空間演出デザイン -3 空間演出デザインIV-1 空間演出デザイン -2 空間演出デザイン -5 空間演出デザイン -7 空間演出デザイン -8 空間演出デザイン -9 空間演出デザイン -10 卒業制作(空間演出デザイン) デザイン基礎2(空間演出デザイン) 空間演出デザイン基礎2 空間演出デザイン演習 -2 空間演出デザイン演習 -1

教員区分	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
基(主専)	准教授	稲田多喜夫 令和7年4月 学士(美術)
		環境の保全と計画2 ランドスケープデザイン原論2 環境デザイン概論[ランドスケープデザイン] -1 環境デザイン[ランドスケープデザイン] -2 環境デザイン[ランドスケープデザイン] -3 環境デザイン[ランドスケープデザイン] -1 環境デザイン[ランドスケープデザイン] -2 環境デザイン[ランドスケープデザイン] -3 環境デザイン[ランドスケープデザイン] -1 環境デザイン[ランドスケープデザイン] -2 環境デザイン[ランドスケープデザイン] -3 環境デザイン[ランドスケープデザイン] -1 環境デザイン[ランドスケープデザイン] -2 環境デザイン[ランドスケープデザイン] -3 環境デザイン[ランドスケープデザイン] -1 環境デザイン[ランドスケープデザイン] -2 環境デザイン[ランドスケープデザイン] -3 環境デザイン[ランドスケープデザイン] -1 環境デザイン[ランドスケープデザイン] -2 環境デザイン[ランドスケープデザイン] -3 環境デザイン[ランドスケープデザイン] -1 卒業制作(ランドスケープデザイン) 環境デザイン演習[ランドスケープデザイン] -1 環境デザイン演習[ランドスケープデザイン] -1 環境デザイン演習[ランドスケープデザイン] -2 環境デザイン演習[ランドスケープデザイン]
基(主専)	准教授	平野章博 令和7年4月 修士(建築学)
		卒業制作(建築デザイン) デザイン基礎2(建築) 環境デザイン演習[建築] -2 環境デザイン演習[建築]
基(主専)	講師	岡本正人 令和7年4月 修士(工学)
		空間演出デザイン -1 空間演出デザイン -3 空間演出デザイン -1 空間演出デザイン -2 空間演出デザイン -3 空間演出デザインIV-1 空間演出デザイン -2 空間演出デザイン -5 空間演出デザイン -7 空間演出デザイン -8 空間演出デザイン -9 空間演出デザイン -10 卒業制作(空間演出デザイン) デザイン基礎2(空間演出デザイン) 空間演出デザイン基礎2 空間演出デザイン演習 -2 空間演出デザイン演習 -1 <del>空間演出デザイン演習</del>

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
基(主専)	講師	亀田康全 <令和7年4月> 修士(工学)	環境デザイン「建築」 - 1 環境デザイン「建築」 - 2 環境デザイン「建築」 - 3 環境デザイン「建築」 - 1 環境デザイン「建築」 - 2 環境デザイン「建築」 - 3 環境デザイン基礎1(建築) 環境デザイン基礎2(建築) 環境デザイン演習「建築」 - 1
		魚谷剛紀 <令和7年4月> 修士(工学)	建築材料 環境デザイン「建築」 - 1 環境デザイン「建築」 - 2 環境デザイン「建築」 - 3 環境デザイン「建築」 - 4 環境デザイン「建築」 - 5 環境デザイン「建築」 - 6 環境デザイン演習「建築」 - 1 環境デザイン演習「建築」 - 1
基(専)	教授	小杉宰子 <令和7年4月> 学士(美術)	住宅概論 卒業制作(建築デザイン)
その他	教授	上村博 <令和7年4月> 修士(文学)	芸術教養基礎 地域芸術実践1 地域芸術実践2
		下村泰史 <令和7年4月> 博士(農学)	地域環境論 生態学 地域を探る 環境の保全と計画1 環境の保全と計画2 ランドスケープデザイン原論1

教員区分	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
基(主専)	講師	亀田康全 令和7年4月 修士(工学)	環境デザイン「建築」 - 1 環境デザイン「建築」 - 2 環境デザイン「建築」 - 3 環境デザイン「建築」 - 1 環境デザイン「建築」 - 2 環境デザイン「建築」 - 3 環境デザイン基礎1(建築) 環境デザイン基礎2(建築) 環境デザイン演習「建築」 - 1
		本間智希 令和7年4月 修士(建築学)	環境デザイン「建築」 - 1 環境デザイン「建築」 - 2 環境デザイン「建築」 - 3 環境デザイン「建築」 - 4 環境デザイン「建築」 - 5 環境デザイン「建築」 - 6 環境デザイン演習「建築」 - 1 建築史1(近代)
その他	教授	小杉宰子 令和7年4月 学士(美術)	住宅概論
その他	教授	上村博 令和7年4月 修士(文学)	芸術教養基礎 地域芸術実践1 地域芸術実践2
		下村泰史 令和7年4月 博士(農学)	地域環境論 生態学 地域を探る 環境の保全と計画1 ランドスケープデザイン原論1

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
その他	教授	中島敏行 <令和7年4月> 修士(美術)
		入門デッサン1 入門デッサン2 入門デッサン3 入門デッサン4 基礎デッサン2 基礎デッサン3 基礎デッサン4 デッサン 形態表現基礎
その他	教授	金子典正 <令和7年4月> 博士(文学)
		芸術史講義(アジア)1 芸術史講義(アジア)2
その他	教授	早川克美 <令和7年4月> 修士(学際情報学)
		情報 色彩と形
その他	教授	石神裕之 <令和7年4月> 博士(史学)
		日本史への階段
その他	准教授	加藤志織 <令和7年4月> 修士(芸術学)
		はじめての共通科目 アジア史 西洋史 文化研究2 美術史(近現代)1 芸術史講義(ヨーロッパ)1 芸術史講義(ヨーロッパ)2
その他	准教授	三上美和 <令和7年4月> 博士(哲学)
		芸術史講義(日本)1 芸術史講義(日本)2

教員区分	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
その他	教授	中島敏行 令和7年4月 修士(美術)
		入門デッサン1 入門デッサン2 入門デッサン3 入門デッサン4 基礎デッサン2 基礎デッサン3 基礎デッサン4 デッサン 形態表現基礎
その他	教授	金子典正 令和7年4月 博士(文学)
		芸術史講義(アジア)1 芸術史講義(アジア)2
その他	教授	早川克美 令和7年4月 修士(学際情報学)
		情報 色彩と形
その他	教授	石神裕之 令和7年4月 博士(史学)
		日本史への階段
その他	准教授	加藤志織 令和7年4月 修士(芸術学)
		はじめての共通科目 芸術史講義(ヨーロッパ)1 芸術史講義(ヨーロッパ)2 <b>美術史基礎</b>
その他	講師	<b>菊地大</b> 令和7年4月 修士(史学)
		<b>アジア史</b>
その他	講師	<b>小柏裕俊</b> 令和7年4月 博士(文学)
		<b>芸術史講義(ヨーロッパ)3</b>
その他	講師	<b>大北彰子</b> 令和7年4月 博士(文学)
		<b>芸術史講義(ヨーロッパ)4</b>
その他	准教授	三上美和 令和7年4月 博士(哲学)
		芸術史講義(日本)1 芸術史講義(日本)2

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
その他	教授	野村朋弘 <令和7年4月> 修士(文学(歴史学))
		日本史への階段 オンライン授業入門 古典日本語
その他	准教授	池内晶子 <令和7年4月> 修士(美術)
		入門デッサン1 入門デッサン2 入門デッサン5 基礎デッサン4 基礎デッサン5 コラージュ・デッサン
その他	准教授	宮信明 <令和7年4月> 博士(文学)
		芸術史講義(日本)3 芸術史講義(日本)4
その他	講師	江本紫織 <令和7年4月> 博士(文学)
		文化研究3 美学概論 写真論1 写真論2 芸術理論1 芸術理論2 芸術史講義(近現代)1 芸術史講義(近現代)2

教員区分	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
その他	教授	野村朋弘 令和7年4月 修士(文学(歴史学))
		日本史への階段 オンライン授業入門 古典日本語
その他	講師	池内晶子 令和7年4月 修士(美術)
		入門デッサン1 入門デッサン5 基礎デッサン4
その他	講師	しばたみづき 令和7年4月 博士(美術)
		コラージュ・デッサン 基礎デッサン5
その他	准教授	宮信明 令和7年4月 博士(文学)
		芸術史講義(日本)3 芸術史講義(日本)4
その他	講師	江本紫織 令和7年4月 博士(文学)
		芸術史講義(近現代)1 芸術史講義(近現代)2
その他	講師	築地正明 令和7年4月 修士(造形)
		文化研究3
その他	講師	遠藤太良 令和7年4月 修士(人間・環境学)
		美学概論
その他	講師	森井真一 令和7年4月 修士(芸術学)
		写真論1 写真論2
その他	講師	永塚憲治 令和7年4月 修士(中国学)
		芸術理論1

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
その他	講師	町田香 <令和7年4月> 博士(学術)
		造園史1(日本) 環境デザイン基礎1(ランドスケープデザイン)
その他	教授	田口章子 <令和7年4月> 博士(日本語日本文学)
		伝統芸術基礎(伝統芸能)
その他	教授	河合健 <令和7年4月> 修士(農学)
		造園史2(西洋)
その他	教授	君野隆久 <令和7年4月> 修士(学術)
		ことばと表現

教員区分	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
その他	講師	高藤大樹 令和7年4月 博士(芸術学)
		芸術理論2
その他	講師	中瀬悠太 令和7年4月 博士(人間・環境学)
		自然史フィールドワーク入門
その他	講師	岩元宏輔 令和7年4月 修士(経営管理)
		キャリアデザインI キャリアデザインII
その他	教授	平井愛子 令和7年4月 BFA
		K-POPダンス実践1 K-POPダンス実践2
その他	講師	町田香 令和7年4月 博士(学術)
		造園史1(日本)
その他	教授	加藤友規 令和7年4月 博士(学術)
		環境デザイン基礎1(ランドスケープデザイン)
その他	教授	田口章子 令和7年4月 博士(日本語日本文学)
		伝統芸術基礎(伝統芸能)
その他	教授	河合健 令和7年4月 修士(農学)
		造園史2(西洋)
その他	教授	君野隆久 令和7年4月 修士(学術)
		ことばと表現

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
その他	教授	北小路隆志 <令和7年4月> 修士(経済学)
		映画研究への階段
その他	准教授	岸本栄嗣 <令和7年4月> 修士(教育学)
		体育実技
その他	講師	荻野史枝 <令和7年4月> 修士(芸術)
		デザイン基礎2(ランドスケープデザイン)
その他	講師	杉山薫 <令和7年4月> 学士(農学)
		環境デザイン演習「ランドスケープデザイン」 - 2
その他	講師	藤部恭代 <令和7年4月> 修士(芸術)
		環境デザイン演習「ランドスケープデザイン」 - 2
その他	講師	中谷丞 <令和7年4月> 修士(芸術)
		環境デザイン基礎2(ランドスケープデザイン)
その他	講師	河野潤 <令和7年4月> 学士(芸術)
		デザイン基礎1(ランドスケープデザイン) 環境デザイン演習「ランドスケープデザイン」 - 2
その他	講師	津田主税 <令和7年4月> 学士(芸術)
		環境デザイン演習「ランドスケープデザイン」 - 1

教員区分	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
その他	教授	大辻都 令和7年4月 博士(学術)
		文学研究への階段 論述基礎 詩学への案内 芸術史講義(近現代)3 芸術史講義(近現代)4
その他	教授	北小路隆志 令和7年4月 修士(経済学)
		映画研究への階段
その他	准教授	岸本栄嗣 令和7年4月 修士(教育学)
		体育実技
その他	講師	荻野史枝 令和7年4月 修士(芸術)
		デザイン基礎2(ランドスケープデザイン)
その他	講師	杉山薫 令和7年4月 学士(農学)
		環境デザイン演習「ランドスケープデザイン」 - 2
その他	講師	藤部恭代 令和7年4月 修士(芸術)
		環境デザイン演習「ランドスケープデザイン」 - 2
その他	講師	中谷丞 令和7年4月 修士(芸術)
		環境デザイン基礎2(ランドスケープデザイン)
その他	講師	河野潤 令和7年4月 学士(芸術)
		デザイン基礎1(ランドスケープデザイン) 環境デザイン演習「ランドスケープデザイン」 - 2
その他	講師	藤津紫 令和7年4月 修士(文学)
		環境デザイン演習「ランドスケープデザイン」 - 1

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
その他	講師	尼崎博正 <令和7年4月> 博士(農学)
		造園史1(日本) 環境デザイン基礎1(ランドスケープデザイン)
その他	講師	藤澤三佳 <令和7年4月> 博士(文学)
		社会学への階段
その他	講師	坂本美加 <令和7年4月> 修士(文学)
		伝統芸術基礎(文楽)
その他	講師	志村直愛 <令和7年4月> 修士(美術)
		都市環境への階段
その他	講師	西村智弘 <令和7年4月> 高等学校卒
		映画研究への階段
その他	講師	武藤康弘 <令和7年4月> 博士(文学)
		考古学への階段
その他	講師	木村裕樹 <令和7年4月> 修士(文学)
		民俗学への階段
その他	講師	加藤希理子 <令和7年4月> 修士(文学)
		音楽 宗教学
その他	講師	鈴木美湖 <令和7年4月> 修士(文学)
		外国語1
その他	講師	小川後楽 <令和7年4月> 学士(法学)
		伝統芸術基礎(煎茶)

教員 区分	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
その他	講師	藤澤三佳 令和7年4月 博士(文学)
		社会学への階段
その他	講師	坂本美加 令和7年4月 修士(文学)
		伝統芸術基礎(文楽)
その他	講師	志村直愛 令和7年4月 修士(美術)
		都市環境への階段
その他	講師	西村智弘 令和7年4月 高等学校卒
		映画研究への階段
その他	講師	木村裕樹 令和7年4月 修士(文学)
		民俗学への階段
その他	講師	加藤希理子 令和7年4月 修士(文学)
		音楽 宗教学
その他	講師	鈴木美湖 令和7年4月 修士(文学)
		外国語1
その他	講師	小川後楽 令和7年4月 学士(法学)
		伝統芸術基礎(煎茶)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
その他	講師	唄邦弘 <令和7年4月> 博士(文学)
		社会学
その他	講師	栗原俊秀 <令和7年4月> 修士(人間・環境学)
		学際的な知への案内
その他	講師	橋爪亮 <令和7年4月> 修士(経済学)
		経済学
その他	講師	朝倉一貴 <令和7年4月> 修士(歴史学)
		列島考古学
その他	講師	神山さふみ <令和7年4月> 修士(英文学)
		英語1A
その他	講師	宇多鼓次朗 <令和7年4月> 修士(法学)
		日本の憲法

教員区分	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
その他	講師	吉水佑奈 令和7年4月 修士(文学)
		社会学
その他	講師	柱本元彦 令和7年4月 博士(文学)
		学際的な知への案内
その他	講師	中川遥 令和7年4月 修士(経済学)
		経済学
その他	講師	河野摩耶 令和7年4月 修士(文学)
		列島考古学
その他	講師	神山さふみ 令和7年4月 修士(英文学)
		英語1A
その他	講師	宇多鼓次朗 令和7年4月 修士(法学)
		日本の憲法

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
その他	講師	嶋見優希 <令和7年4月> 修士(教育学)
		心理学
その他	講師	樽田勇樹 <令和7年4月> 修士(文学)
		日本文化論
その他	講師	浜口誠至 <令和7年4月> 博士(文学)
		京都を学ぶ
その他	講師	野口良平 <令和7年4月> 修士(文学)
		哲学への階段
その他	講師	井元拓斗 <令和7年4月> 修士(法学)
		政治学
その他	講師	高田和典 <令和7年4月> 学士(教育学)
		数と世界
その他	講師	小林園子 <令和7年4月> 修士(文学)
		身体と表現

教員区分	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
その他	講師	渡部綾一 令和7年4月 博士(文学)
		心理学
その他	講師	樽田勇樹 令和7年4月 修士(文学)
		西洋史 文化研究2
その他	講師	浜口誠至 令和7年4月 博士(文学)
		京都を学ぶ
その他	講師	野口良平 令和7年4月 修士(文学)
		哲学への階段
その他	講師	松山千隼 令和7年4月 修士(法学)
		政治学
その他	講師	横山明日希 令和7年4月 修士(理学)
		数と世界
その他	講師	小林園子 令和7年4月 修士(文学)
		身体と表現

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
その他	講師	秋満吉彦 <令和7年4月> 修士(文学)
		名著を読む
その他	講師	相馬和将 <令和7年4月> 修士(歴史学)
		日本史
その他	講師	長瀬海 <令和7年4月> 修士(日本文学)
		哲学への案内
その他	講師	林由紀子 <令和7年4月> 専門学校卒
		都市デザイン論
その他	講師	河崎吉紀 <令和7年4月> 博士(新聞学)
		メディア論への階段
その他	講師	大黒俊哉 <令和7年4月> 博士(農学)
		自然学への階段
その他	講師	猪岡叶英 <令和7年4月> 修士(文学)
		文化研究1
その他	講師	高橋裕行 <令和7年4月> 学士(環境情報学)
		メディア論への階段
その他	講師	森井友之 <令和7年4月> 修士(文化史学)
		地域文化学演習

教員区分	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
その他	講師	秋満吉彦 令和7年4月 修士(文学)
		名著を読む
その他	講師	相馬和将 令和7年4月 修士(歴史学)
		日本史
その他	講師	長瀬海 令和7年4月 修士(日本文学)
		哲学への案内
その他	講師	林由紀子 令和7年4月 専門学校卒
		都市デザイン論
その他	講師	大黒俊哉 令和7年4月 博士(農学)
		自然学への階段
その他	講師	陣内恵梨 令和7年4月 修士(日本学)
		文化研究1
その他	講師	高橋裕行 令和7年4月 学士(環境情報学)
		メディア論への階段
その他	講師	森井友之 令和7年4月 修士(文化史学)
		地域文化学演習

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
その他	講師	水本和美 <令和7年4月> 修士(文学)
		考古学への階段
その他	講師	新名阿津子 <令和7年4月> 博士(理学)
		地域環境学演習
その他	講師	助川誠 <令和7年4月> 修士(工学)
		ブランディングデザイン論
その他	講師	大塚大 <令和7年4月> 修士(法学)
		知的財産権研究
その他	講師	押田光弘 <令和7年4月> 博士(工学)
		構造力学1
その他	講師	飯塚浩一郎 <令和7年4月> 学士(環境情報学)
		マーケティング概論
その他	講師	加藤正浩 <令和7年4月> 修士(工学)
		建築生産
その他	講師	岩波由佳 <令和7年4月> 修士(生活科学)
		建築史3(日本)
その他	講師	貞許美和 <令和7年4月> 修士(工学)
		構造力学1 構造力学2
その他	講師	近藤美穂 <令和7年4月> 学士(芸術)
		インテリア計画論1 インテリア計画論2

教員 区分	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
その他	講師	水本和美 令和7年4月 修士(文学)
		考古学への階段
その他	講師	新名阿津子 令和7年4月 博士(理学)
		地域環境学演習
その他	講師	助川誠 令和7年4月 修士(工学)
		ブランディングデザイン論
その他	講師	大塚大 令和7年4月 修士(法学)
		知的財産権研究
その他	講師	押田光弘 令和7年4月 博士(工学)
		構造力学1
その他	講師	飯塚浩一郎 令和7年4月 学士(環境情報学)
		マーケティング概論
その他	講師	加藤正浩 令和7年4月 修士(工学)
		建築生産
その他	講師	岩波由佳 令和7年4月 修士(生活科学)
		建築史3(日本)
その他	講師	貞許美和 令和7年4月 修士(工学)
		構造力学1 構造力学2
その他	講師	近藤美穂 令和7年4月 学士(芸術)
		<b>インテリア計画論2</b>

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
その他	講師	吉田祐介 <令和7年4月> 学士(工学)
		空間構成材料
その他	講師	池上陽子 <令和7年4月> 博士(学術)
		建築環境工学
その他	講師	岡北一孝 <令和7年4月> 博士(学術)
		建築史2(西洋)
その他	講師	赤松紀彦 <令和7年4月> 修士(文学)
		芸術史講義(アジア)3 芸術史講義(アジア)4
その他	講師	前田尚香 <令和7年4月> 博士(文学)
		芸術史講義(アジア)3 芸術史講義(アジア)4
その他	講師	杉山優子 <令和7年4月> 修士(美術)
		色彩表現基礎
その他	講師	田中篤 <令和7年4月> 修士(工学)
		建築設備
その他	講師	杉浦充 <令和7年4月> 学士(芸術)
		空間構成材料
その他	講師	古山真知子 <令和7年4月> 修士(法学)
		著作権を学ぶ
その他	講師	大杉直 <令和7年4月> 修士(芸術)
		立体造形演習1 立体造形演習2

教員 区分	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
その他	講師	吉田祐介 令和7年4月 学士(工学)
		空間構成材料
その他	講師	池上陽子 令和7年4月 博士(学術)
		建築環境工学
その他	講師	岡北一孝 令和7年4月 博士(学術)
		建築史2(西洋)
その他	講師	赤松紀彦 令和7年4月 修士(文学)
		芸術史講義(アジア)3 芸術史講義(アジア)4
その他	講師	前田尚香 令和7年4月 博士(文学)
		芸術史講義(アジア)3 芸術史講義(アジア)4
その他	講師	杉山優子 令和7年4月 修士(美術)
		色彩表現基礎
その他	講師	田中篤 令和7年4月 修士(工学)
		建築設備
その他	講師	杉浦充 令和7年4月 学士(芸術)
		空間構成材料
その他	講師	古山真知子 令和7年4月 修士(法学)
		著作権を学ぶ
その他	講師	大杉直 令和7年4月 修士(芸術)
		立体造形演習1 立体造形演習2

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
その他	講師	西田雅嗣 <令和7年4月> 修士(工学)
		建築史2(西洋)
その他	講師	佐々木龍郎 <令和7年4月> 修士(工学)
		都市概論
その他	講師	鴻野吉宏 <令和7年4月> 修士(工学)
		建築法規
その他	講師	青山修也 <令和7年4月> 専門学校卒
		インテリア計画論1 インテリア計画論2
その他	講師	三木勲 <令和7年4月> 博士(学術)
		建築史1(近代) 生活空間デザイン史

教員区分	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
その他	講師	西田雅嗣 令和7年4月 修士(工学)
		建築史2(西洋)
その他	講師	佐々木龍郎 令和7年4月 修士(工学)
		都市概論
その他	講師	鴻野吉宏 令和7年4月 修士(工学)
		建築法規
その他	講師	青山修也 令和7年4月 専門学校卒
		インテリア計画論1 インテリア計画論2
その他	講師	三木勲 令和7年4月 博士(学術)
		生活空間デザイン史
その他	講師	池田久司 令和7年4月 修士(建築設計学)
		環境デザイン演習[建築]-1 建築設備
その他	講師	浅野元樹 令和7年4月 修士(工学)
		建築材料

(注)・報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)(その2の2)(その2の3)に準じて作成してください。  
なお、設置認可時又は届出時、改正前大学設置基準等(令和4年10月1日施行前)に基づき、対象学部等を設置している場合、改正後大学設置基準等(改正前様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教員名簿」を確認してください。
- ・「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の教員全て(基幹教員(大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は「専任教員」)以外の教員(助手を除く)の上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字**としてください。
- ・年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
- ・記載は、設置認可時又は届出時における「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教員名簿」に記載されている「教員区分」(改正後大学設置基準等の改正後大学設置基準等(令和4年10月1日施行)の適用以降については、主要授業科目にあたる「担当授業」)
- ・教員がサバティカル等で不在の期間がある場合、その期間(年月日)を上段「学位」の下へ記入してください。
- ・不要な年度(令和6年度開設であれば令和5年度以前)の表は適宜削除してください。
- ・指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「担当授業科目名」の上段に変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目名を記入

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和7年度】

R5.3 魚谷剛紀 講師就任辞退、後任としてR6.4 本間智希講師就任  
 R7.4 小杉宰子教授 大学院 芸術環境専攻へ異動により、基(専) その他 に変更 教授の補充を計画中

- 担当変更(美学概論)江本紫織 講師 遠藤大良 講師
- 担当変更(写真論1・2)江本紫織 講師 森井真一 講師
- 担当変更(芸術理論1)江本紫織 講師 永塚憲治 講師
- 担当変更(芸術理論2)江本紫織 講師 高藤大樹 講師
- 担当変更(芸術史講義(アジア)3)前田尚香講師 就任辞退 後任なし(届出時から赤松紀彦講師も担当のため)
- 担当変更(芸術史講義(アジア)4)前田尚香講師 就任辞退 後任なし(届出時から赤松紀彦講師も担当のため)
- 担当追加(芸術史講義(ヨーロッパ)4)届出時にもれあり、大北彰子 講師を追加
- 担当追加(芸術史講義(近現代)3)届出時にもれあり、大辻都 教授を追加
- 担当追加(芸術史講義(近現代)4)届出時にもれあり、大辻都 教授を追加
- 担当変更(コラージュ・デッサン)池内晶子講師 しばたみづき 講師
- 担当変更(建築史1(近代))三木勲講師 本間智希講師
- 担当変更(建築設備)田中篤 講師 就任辞任により、池田久司 講師に変更
- 担当変更(建築材料)魚谷剛紀 講師就任辞退により、浅野元樹講師へ変更
- 担当変更(環境の保全と計画2)下村泰史 教授 後任なし(届出時から福田多喜男 准教授も担当のため)
- 担当変更(インテリア計画論1)近藤美穂 講師 後任なし(届出時から青山修也講師も担当のため)
- 担当変更(造園史1(日本))尼崎博正 講師就任辞任、後任なし(届出時から町田香 准教授も担当のため)
  
- 担当追加(論述基礎)届出時にもれあり、大辻都 教授を追加
- 担当追加(詩学への案内)届出時にもれあり、大辻都 教授を追加
- 担当変更(心理学)嶋見優希 講師就任辞退により、渡部綾一 講師に変更
- 担当変更(政治学)井本拓斗 講師就任辞退により、松山千隼 講師に変更
- 担当変更(経済学)橋爪亮 講師就任辞退により、中川遥 講師に変更
- 担当変更(社会学)唄邦弘 講師就任辞任により、吉水佑奈 講師に変更
- 担当変更(アジア史)加藤志織 准教授 菊地大 講師
- 担当変更(西洋史)加藤志織 准教授 樽田勇樹 講師
- 担当変更(列島考古学)朝倉一貴 講師 河野摩耶 講師
- 担当変更(文化研究1)猪岡叶英 講師就任辞退により、陣内恵梨 講師に変更
- 担当変更(文化研究2)加藤志織 准教授 樽田勇樹 講師
- 担当変更(文化研究3)江本紫織 講師 築地正明 講師
- 担当変更(学際的な知への案内)栗原俊秀 講師就任辞退により、柱本元彦 講師に変更
- 担当変更(数と世界)高田和典 講師就任辞退により、横山明日希 講師に変更
- 担当変更(入門デッサン2)池内晶子 講師 後任なし(届出時から中島敏行教授も担当のため)
- 担当変更(基礎デッサン5)池内晶子 講師 しばたみづき 講師
- 担当変更(考古学への階段)武藤康弘 講師就任辞退 後任なし(届出時から水本和美講師も担当のため)
- 担当追加(文学研究への階段)届出時にもれあり、大辻都 教授を追加
- 担当変更(メディア論への階段)河崎吉紀 講師 後任なし(届出時から高橋裕行講師も担当のため)
  
- 担当変更(環境デザイン演習[建築] -1)魚谷剛紀 講師就任辞退により、本間智希講師が担当
- 担当変更(環境デザイン演習[建築] -1)魚谷剛紀 講師就任辞退により、池田久司講師へ変更
- 担当変更(環境デザイン[建築] -1)魚谷剛紀 講師就任辞退により、本間智希講師が担当
- 担当変更(環境デザイン[建築] -2)魚谷剛紀 講師就任辞退により、本間智希講師が担当
- 担当変更(環境デザイン[建築] -3)魚谷剛紀 講師就任辞退により、本間智希講師が担当
- 担当変更(環境デザイン[建築] -4)魚谷剛紀 講師就任辞退により、本間智希講師が担当
- 担当変更(環境デザイン[建築] -5)魚谷剛紀 講師就任辞退により、本間智希講師が担当
- 担当変更(環境デザイン[建築] -6)魚谷剛紀 講師就任辞退により、本間智希講師が担当
- 担当変更(環境デザイン基礎1(ランドスケープデザイン))町田香 講師、尼崎博正 講師 加藤友規 教授
- 担当変更(環境デザイン演習[ランドスケープデザイン] -1)津田主税講師就任辞任により、藤津紫講師が担当
- 担当変更(卒業制作(建築デザイン))小杉宰子教授 異動 後任なし(届出時から平野章博准教授も担当のため)
- 担当追加(空間演出デザイン演習IV)届出時に科目記載の漏れあり、追加。(上田篤教授、川合健太准教授、岡本真人講師)

(注) 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。

- ・ **認可で設置された学部等の基幹(専任)教員を変更する場合は**、当該基幹(専任)教員が授業を開始する前に必ず「基幹(専任)教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(A C教員審査)を受けてください。

**原則としてA C教員審査を受けずに基幹(専任)教員として授業等を担当することは出来ません。**

なお、改正前大学設置基準等に基づいて認可を受けて設置された学部等が、改正後大学設置基準等への適用のため、大学が基幹教員の要件を満たすと判断した

「専任教員」を「基幹教員」とする場合は、A C教員審査を受審する必要はない扱いとしています。(改正後大学設置基準等の適用にあたり、

「基幹教員」の担当授業科目を追加する場合、「基幹教員」の担当授業科目の内容を変更するなど、A C教員審査の受審を求めた事由が発生する場合は、A C教員審査を受審する必要があります。

- ・ A C教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。

なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。

- ・ 不要な年度(令和6年度開設であれば令和5年度以前)の表は適宜削除してください。

(2) 基幹教員数等

(注)・計画の区分が「学部等連係課程実施基本組織(学科連係課程実施学科)の設置」の場合、大学設置基準第四十一条第二項(短期大学設置基準第三条の二)に基づく「連係協力学部等(連係協力学科)」の基幹教員数について、「(2)-① 設置基準上の必要基幹教員数」及び「(2)-② 基幹教員等数【大学】」を連係協力学部等(連係協力学科)ごとに別ファイルで作成してください。

(2)-① 設置基準上の必要基幹教員数

完成年度時における設置基準上の必要基幹教員数( )	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	うち、完成年度時における設置基準上の専ら当該学部等の教育研究に従事する必要基幹教員数( )の4分の3以上
8	4	6
名	名	名

(注)・大学設置基準別表第一、短期大学設置基準別表第一、高等専門学校設置基準第六条第九項により算出される基幹教員数を記入してください。  
 ・高等専門学校の場合、「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数」欄は「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授・准教授数として、高等専門学校設置基準第八条により算出される必要教授・准教授数を記入してください。

(2)-② 基幹教員等数【大学・高専】

設置時の計画						現在(報告時)の状況					
教授	准教授	講師	助教	計(A)	助手(A')	教授	准教授	講師	助教	計(B)	助手(B')
2	4	3	0	9	9	1	4	3	0	8	8
(1)	(4)	(3)	(0)	(8)	(8)						
現在(報告時)の完成年度時の状況						現在(報告時)の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計(C)	助手(C')	教授	准教授	講師	助教	計(D)	助手(D')
4	1	3	0	8	8	4	1	3	0	8	8
[2]	[3]	[0]	[0]	[0]	[1]	[2]	[3]	[0]	[0]	[0]	[1]

(注)・「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( )内に開設時の状況を記入してください。  
 高等専門学校の場合、「うち専ら当該学部等の教育研究に従事する者(「基(主専)」及び「基(専)」の計)」欄は、「うち専ら当該高等専門学校の教育に従事する者(「基(主専)」及び「基(専)」の計)」として記入してください。  
 なお、設置認可時又は届出時、改正前大学設置基準(令和4年10月1日施行前)に基づき、対象学部等を設置している場合、「設置時の計画」欄は「設置時の計画(改正前大学設置基準等)」とした上で、「専任教員」及び「助手」の人数を記入してください。  
 また、「計(A)」の「うち専ら当該学部等の教育研究に従事する者(「基(主専)」及び「基(専)」の計)(A)」欄には「-」を記入してください。  
 ・「現在(報告時)の状況」には、報告年度の5月1日の教員数(実人数)を記入してください。  
 ・「現在(報告時)の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在(報告時)の状況」に記入した数字に、教員審査を要済済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在(報告時)の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、  
 [ ]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：△1)  
 ・「現在(報告時)の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、  
 [ ]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：△1)

(2)-③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢(歳)	報告時(上記(B)の教員のうち、定年を延長して採用している教員数)	完成年度時(上記(C)の教員のうち、定年を延長して採用する教員数)
65	0	0
歳	名	名

(注)・「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。  
 ・なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段階書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2)-④ 設置時の計画に対する教員充足率

【基幹教員全体】  
 現在(報告時)の完成年度時の状況(C) =  $\frac{8}{9} = 88.88\%$   
 設置時の計画(A)

【基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者】  
 現在(報告時)の完成年度時の状況(C') =  $\frac{8}{9} = 88.88\%$   
 設置時の計画(A')

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑤ 現在(報告時)の状況における定年を延長している教員構成率

報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数 =  $\frac{0}{8} = 0\%$   
 現在(報告時)の状況(B)

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

現在(報告時)の完成年度時の状況(C) =  $\frac{0}{0} = -\%$   
 設置時の計画(A')

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 基幹（専任）教員辞任等の理由

(3) -① 基幹（専任）教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	基幹（専任）教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
1	講師	魚谷剛紀	R5.03	選択	建築材料		R5.3.31付け本人希望による辞任（7）			
				選択	環境デザイン〔建築〕 - 1					
				選択	環境デザイン〔建築〕 - 2					
				選択	環境デザイン〔建築〕 - 3					
				選択	環境デザイン〔建築〕 - 4					
				選択	環境デザイン〔建築〕 - 5					
				選択	環境デザイン〔建築〕 - 6					
				選択	環境デザイン演習〔建築〕 - 1					
2	教授	小杉幸子		選択	環境デザイン演習〔建築〕 - 1		R6 通学課程大学院に異動（7）			
				選択	卒業制作（建築デザイン）					
合計（D）				後任補充状況の集計（E）						
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		の合計数（a）		の合計数（b）		の合計数（c）		
2	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	9	科目	選択	7	科目	選択	2	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	9	科目	計	7	科目	計	2	科目

(注)・認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての基幹（専任）教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。

- ・「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) -②基幹（専任）教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに基幹（専任）教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・基幹（専任）教員が担当する（している）場合は「①」
- ・基幹（専任）教員以外の教員（兼任兼担教員）が担当する（している）場合は「②」
- ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -② 基幹（専任）教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	基幹（専任）教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
合計（F）				後任補充状況の集計（G）						
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		の合計数（a）		の合計数（b）		の合計数（c）		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(注)・一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての基幹（専任）教員について、記入してください。

- （学年進行中に基幹教員の要件を満たさなくなったことにより、基幹教員でなくなった教員についても記入してください。）
- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに基幹（専任）教員が新たに辞任した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・基幹（専任）教員が担当する（している）場合は「①」
- ・基幹（専任）教員以外の教員（兼任兼担教員）が担当する（している）場合は「②」
- ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記 (3) -① ・ (3) -② の合計

合計（D）+（F）		後任補充状況の集計（E）+（G）					
辞任等した教員数	担当科目数の合計（a）+（b）+（c）	の合計数（a）		の合計数（b）		の合計数（c）	
2	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	9	科目	選択	7	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	9	科目	計	7	科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D)+(F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{2}{9} = 22.22\%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 令和6年度報告書から、新たに辞任等した基幹（専任）教員等の状況

0 人

(注)・(3) -①、(3) -②で赤字で記載した基幹（専任）教員数の合計数を記載してください。  
 ・令和7年度開設の学科等の場合、(D) + (F) と同数を記載してください。

(3) -⑥ 定年により退職した基幹（専任）教員に対する後任補充状況

番号	職位	基幹（専任）教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
合計				後任補充状況の集計					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		の合計数 (a)		の合計数 (b)		の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

(注)・定年により退職した全ての基幹（専任）教員について、記入してください。  
 ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに基幹（専任）教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・基幹（専任）教員が担当する（している）場合は「①」  
 ・基幹（専任）教員以外の教員（兼任兼担教員）が担当する（している）場合は「②」  
 ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 基幹（専任）教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

魚谷剛紀講師の未就任に対し、本間智希講師が着任。魚谷講師が担当予定であった科目は開設時に在籍する基幹教員で担当するよう見直しを行った。  
 小杉幸子教授の異動による未就任に対しても、主要科目については開設時に在籍する基幹教員が担当、学部共通専門科目については引き続き小杉教授が「その他 教授」として担当する。  
 学生にはシラバスを通じ開設時の教員陣は周知している。

(注)・上記(3)の基幹（専任）教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区分	附帯事項等		履行状況		今後の実施計画
<p>認可時</p> <p>(令和5年度) (令和6年度) (令和7年度)</p>	<p>通信教育部芸術学部芸術学科の収容定員超過の是正に努めること。【遵守事項】</p>	<p>【認可】 遵守事項</p>	<p>履行中。詳細は、別紙「附帯事項に対する対応状況等」を参照。(6)</p> <p>令和7年度において、公平・公正な手続きに基づく適切な入学者選抜の実施及び収容定員関係学則変更認可申請を行った結果、入学定員超過率が0.84となり、入学定員超過が是正された。収容定員充足率については収容定員1,200人に対し学生数2,183人であるため1.81倍となっており、令和6年度の2.16倍から改善している。(7)</p>	<p>履行中</p>	<p>詳細は、別紙「附帯事項に対する対応状況等」を参照。(6)</p> <p>引き続き公平・公正な手続きに基づく適切な入学者選抜を実施することで、収容定員超過の是正に努める。(7)</p>
<p>認可時</p> <p>(令和5年度) (令和6年度) (令和7年度)</p>	<p>通信教育部芸術学部デザイン科の収容定員超過の是正に努めること。【遵守事項】</p>	<p>【認可】 遵守事項</p>	<p>履行中。詳細は、別紙「附帯事項に対する対応状況等」を参照。(6)</p> <p>令和7年度より、デザイン科の募集停止を行い、あらたに環境デザイン学科、文化コンテンツ創造学科を設置した。公平・公正な手続きに基づく適切な入学者選抜の実施による令和7年度環境デザイン学科の入学定員及び収容定員充足率は0.70、同文化コンテンツ創造学科は0.96となっている。(7)</p>	<p>履行中</p>	<p>詳細は、別紙「附帯事項に対する対応状況等」を参照。(6)</p> <p>引き続き公平・公正な手続きに基づく適切な入学者選抜を実施することで、収容定員超過の是正に努める。(7)</p>
<p>認可時</p> <p>(令和5年度) (令和6年度) (令和7年度)</p>	<p>通信教育部芸術学部芸術教養学科の収容定員超過の是正に努めること。【遵守事項】</p>	<p>【認可】 遵守事項</p>	<p>履行中。詳細は、別紙「附帯事項に対する対応状況等」を参照。(6)</p> <p>令和7年度において、公平・公正な手続きに基づく適切な入学者選抜の実施及び収容定員関係学則変更認可申請を行った結果、入学定員超過率が0.56となり、収容定員充足率については収容定員2,540人に対し学生数3,204人であるため1.26倍となっており、令和6年度の1.57倍から改善している。(7)</p>	<p>履行中</p>	<p>詳細は、別紙「附帯事項に対する対応状況等」を参照。(6)</p> <p>引き続き公平・公正な手続きに基づく適切な入学者選抜を実施することで、収容定員超過の是正に努める。(7)</p>

<p>認可時</p> <p>(令和6年度) (令和7年度)</p>	<p>通信教育部芸術学部美術科の収容定員超過の是正に努めること。 【遵守事項】</p>	<p>【認可】 遵守事項</p>	<p>詳細は、別紙「附帯事項に対する対応状況等」を参照。 (6)</p> <p>令和7年度において、公平・公正な手続きに基づく適切な入学者選抜の実施及び収容定員関係学則変更認可申請を行った結果、入学定員超過率が0.69となり、収容定員充足率については収容定員1,440人に対し学生数2,458人であるため1.70倍となっており、令和6年度の2.32倍から改善している。(7)</p>	<p>履行中</p>	<p>詳細は、別紙「附帯事項に対する対応状況等」を参照。 (6)</p> <p>引き続き公平・公正な手続きに基づく適切な入学者選抜を実施することで、収容定員超過の改善に努める。(7)</p>
<p>設置計画履行状況</p> <p>調査結果</p> <p>(令和5年度)</p>	<p>京都芸術大学の既設学科等(芸術学部歴史遺産学学科)の収容定員超過の改善に努めること。</p>	<p>【AC】 指摘事項 (改善)</p>	<p>令和6年度に、芸術学部の改組を行い、歴史遺産学科は学生募集を停止した。 令和6年5月1日時点での歴史遺産学科の在籍学生数は105名となっており、収容定員92人に対して収容定員充足率は1.14倍となっている。(6)</p> <p>令和7年5月1日時点での歴史遺産学科の在籍学生数は72名となっており、収容定員92人に対して収容定員充足率は0.78倍となっている。(7)</p>	<p>履行中</p>	<p>在籍する全ての学生が卒業するまで、現行の教育課程を維持するとともに、きめ細やかな学修支援を行っていく。(6)(7)</p>
<p>設置計画履行状況</p> <p>調査結果</p> <p>(令和5年度)</p>	<p>収容定員充足率の超過が著しく高い。修業年限を超えた長期履修者等を含めた在学生への教育水準の低下を招かないよう、適切な対策を講じるとともに、公平・公正な手続きに基づく適切な入学者選抜の実施等を通じた厳格な定員管理を行うことにより、収容定員超過の改善に努めること。 (通信教育部芸術学部芸術学科)</p>	<p>【AC】 指摘事項 (改善)</p>	<p>詳細は、別紙「附帯事項に対する対応状況等」を参照。 (6)</p> <p>令和7年度において、公平・公正な手続きに基づく適切な入学者選抜の実施及び収容定員関係学則変更認可申請を行った結果、入学定員超過率が0.84となり、入学定員超過が是正された。収容定員充足率については収容定員1,200人に対し学生数2,183人であるため1.81倍となっており、令和6年度の2.16倍から改善している。(7)</p>	<p>履行中</p>	<p>詳細は、別紙「附帯事項に対する対応状況等」を参照。 (6)</p> <p>引き続き公平・公正な手続きに基づく適切な入学者選抜を実施することで、収容定員超過の改善に努める。修業年限を超えた長期履修者等を含めた在学生への教育水準の低下を招かないための対策については別紙「附帯事項に対する対応状況等」を参照(7)</p>
<p>設置計画履行状況</p> <p>調査結果</p> <p>(令和5年度)</p>	<p>収容定員充足率の超過が著しく高い。修業年限を超えた長期履修者等を含めた在学生への教育水準の低下を招かないよう、適切な対策を講じるとともに、公平・公正な手続きに基づく適切な入学者選抜の実施等を通じた厳格な定員管理を行うことにより、収容定員超過の改善に努めること。 (通信教育部芸術学部デザイン科)</p>	<p>【AC】 指摘事項 (改善)</p>	<p>詳細は、別紙「附帯事項に対する対応状況等」を参照。 (6)</p> <p>令和7年度より、デザイン科の募集停止を行い、あらたに環境デザイン学科、文化コンテンツ創造学科を設置した。公平・公正な手続きに基づく適切な入学者選抜の実施による令和7年度環境デザイン学科の入学定員及び収容定員充足率は0.70、同文化コンテンツ創造学科は0.96となっている。(7)</p>	<p>履行中</p>	<p>詳細は、別紙「附帯事項に対する対応状況等」を参照。 (6)</p> <p>引き続き公平・公正な手続きに基づく適切な入学者選抜を実施することで、収容定員超過の改善に努める。(7)</p>

設置計画履行状況 調査結果 (令和5年度)	入学者選抜の適切な実施等を通じ、収容定員超過の改善に努めること。(通信教育部芸術学部芸術教養学科)	【AC】 指摘事項 (改善)	詳細は、別紙「附帯事項に対する対応状況等」を参照。 (6) 令和7年度において、公平・公正な手続きに基づく適切な入学者選抜の実施及び収容定員関係学則変更認可申請を行った結果、入学定員超過率が0.56となり、収容定員充足率については収容定員2,540人に対し学生数3,204人であるため1.26倍となっており、令和6年度の1.57倍から改善している。(7)	履行中	詳細は、別紙「附帯事項に対する対応状況等」を参照。 (6) 引き続き公平・公正な手続きに基づく適切な入学者選抜を実施することで、収容定員超過の改善に努める。(7)
設置計画履行状況 調査結果 (令和5年度)	京都芸術大学の既設学科等(通信教育部芸術学部美術科)の収容定員超過の改善に努めること。	【AC】 指摘事項 (改善)	詳細は、別紙「附帯事項に対する対応状況等」を参照。 (6) 令和7年度において、公平・公正な手続きに基づく適切な入学者選抜の実施及び収容定員関係学則変更認可申請を行った結果、入学定員超過率が0.69となり、収容定員充足率については収容定員1,440人に対し学生数2,458人であるため1.70倍となっており、令和6年度の2.32倍から改善している。(7)	履行中	詳細は、別紙「附帯事項に対する対応状況等」を参照。 (6) 引き続き公平・公正な手続きに基づく適切な入学者選抜を実施することで、収容定員超過の改善に努める。(7)
認可時 (令和6年度)	芸術学部文芸表現学科の収容定員超過の是正に努めること。	【認可】 遵守事項	令和6年度入学者は、定員45名に対し1名プラスの46名にとどめたことで、収容定員超過率は令和5年度の1.16から令和6年度は1.13と改善された。(6) 令和7年度入学者は、定員45名に対し2名プラスの47名となり、収容定員超過率は令和6年度の1.13から令和7年度は1.10と改善された。(7)	履行中	収容定員充足率を踏まえ、合格者の歩留まり率の予測精度を高めることにより、入学者数の厳格な管理を行う。(6)(7)
設置計画履行状況 調査結果 (令和6年度)	入学者選抜の適切な実施等を通じ、収容定員超過の改善に努めること。(通信教育部芸術学部芸術学科(通信教育課程))		令和7年度において、公平・公正な手続きに基づく適切な入学者選抜の実施及び収容定員関係学則変更認可申請を行った結果、入学定員超過率が0.84となり、入学定員超過が是正された。収容定員充足率については収容定員1,200人に対し学生数2,183人であるため1.81倍となっており、令和6年度の2.16倍から改善している。(7)	履行中	引き続き公平・公正な手続きに基づく適切な入学者選抜を実施することで、収容定員超過の改善に努める。(7)
設置計画履行状況 調査結果 (令和6年度)	入学者選抜の適切な実施等を通じ、収容定員超過の改善に努めること。(通信教育部芸術学部デザイン科(通信教育課程))		令和7年度より、デザイン科の募集停止を行い、あらたに環境デザイン学科、文化コンテンツ創造学科を設置した。公平・公正な手続きに基づく適切な入学者選抜の実施による令和7年度環境デザイン学科の入学定員及び収容定員充足率は0.70、同文化コンテンツ創造学科は0.96となっている。 (7)	履行中	引き続き公平・公正な手続きに基づく適切な入学者選抜を実施することで、収容定員超過の改善に努める。(7)
設置計画履行状況 調査結果 (令和6年度)	入学者選抜の適切な実施等を通じ、収容定員超過の改善に努めること。(通信教育部芸術学部芸術教養学科(通信教育課程))		令和7年度において、公平・公正な手続きに基づく適切な入学者選抜の実施及び収容定員関係学則変更認可申請を行った結果、入学定員超過率が0.56となり、収容定員充足率については収容定員2,540人に対し学生数3,204人であるため1.26倍となっており、令和6年度の1.57倍から改善している。(7)	履行中	引き続き公平・公正な手続きに基づく適切な入学者選抜を実施することで、収容定員超過の改善に努める。(7)

設置計画履行状況 調査結果 (令和6年度)	京都芸術大学の既設学科等(通信教育部芸術学部美術科(通信教育課程))の収容定員超過の改善に努めること。		令和7年度において、公平・公正な手続きに基づく適切な入学者選抜の実施及び収容定員関係学則変更認可申請を行った結果、入学定員超過率が0.69となり、収容定員充足率については収容定員1,440人に対し学生数2,458人であるため1.70倍となっており、令和6年度の2.32倍から改善している。(7)	履行中	引き続き公平・公正な手続きに基づく適切な入学者選抜を実施することで、収容定員超過の改善に努める。(7)
認可時 (令和7年度)	芸術学部環境デザイン学科の収容定員超過の是正に努めること。	【認可】 遵守事項	令和6年度の入学者は、定員70名に対して79名だったところ、令和7年度入学者は76名の入学となり、収容定員超過率は令和6年度の1.16から令和7年度は1.11と改善された。(7)	履行中	収容定員充足率を踏まえ、合格者の歩留まり率の予測精度を高めることにより、入学者数の厳格な管理を行う。(7)
認可時 (令和7年度)	芸術学部文芸表現学科の収容定員超過の是正に努めること。	【認可】 遵守事項	令和7年度入学者は、定員45名に対し2名プラスの47名となり、収容定員超過率は令和6年度の1.13から令和7年度は1.10と改善された。(7)	履行中	収容定員充足率を踏まえ、合格者の歩留まり率の予測精度を高めることにより、入学者数の厳格な管理を行う。(7)

(注)・「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおり記載してください。

**【令和6年度報告書から記載内容に変更がある場合】**

令和6年度報告書の記載内容を転記し文末に「(6)」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(7)」と記載してください。

**【令和6年度報告書から記載内容に変更がない場合】**

令和6年度報告書の記載内容を転記し文末に「(6)(7)」と記載してください。

**【令和7年度から新たに調査対象となった学科等又は令和6年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】**

「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(7)」と記載してください。

- ・「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入**してください。その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
- ・「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

## 附帯事項に対する履行状況等（6）

### 【附帯事項】

- 通信教育部芸術学部芸術学科の収容定員超過の是正に努めること。【遵守事項】
- 通信教育部芸術学部デザイン科の収容定員超過の是正に努めること。【遵守事項】
- 収容定員充足率の超過が著しく高い。修業年限を超えた長期履修者等を含めた在学生への教育水準の低下を招かないよう、適切な対策を講じるとともに、公平・公正な手続きに基づく適切な入学者選抜の実施等を通じた厳格な定員管理を行うことにより、収容定員超過の改善に努めること。（通信教育部芸術学部芸術学科、デザイン科）

1. 修業年限を超えた長期履修者等を含めた在学生への教育水準の低下を招かないための対策について

#### 1-1 長期履修制度等の取扱いについて

通信教育課程においては、社会人の学生が多数在籍しており、就労、家事、育児、介護などの様々な事情の中で学修を進めている。また、修業年限を超えて学修を進める学生を想定しており、『学生募集要項』の中で、修業年限4年だけでなく、在籍年限9年の案内も行っている。

平成22（2010）年度から平成26（2014）年度の入学者において、在籍年限となる9年間の通信教育部芸術学部卒業率は31.4%～34.6%となっている。特徴として、在籍期間が5年以上の卒業生が在籍期間内卒業生の35.5%～43.4%を占める点が挙げられる。本学通信教育課程では18歳から90歳代までが全国各地から芸術を学ぶ、「多地域多世代」による生涯教育を掲げており、このことが、多くの学生が、時間をかけて卒業まで学び続ける結果と結びついている。平成27（2015）年度の教育計画の重点目標として「学習継続率向上へ向けた、入学初年度の教育内容の見直しとテキスト科目単位修得率の向上」を掲げており、過去5年間（平成30（2018）～令和4（2022）年度）の平均学習継続率が84.3%と高い水準となっている現在も継続して取り組んでいる。これらの取り組みを経て、今後さらなる卒業率の向上を目指していく。

#### 1-2 学生の課題や作品等の添削について

- （1）添削担当教員が添削を行う際の業務の流れ、採用条件、添削の質を担保するための採用前後の研修内容及び処遇について

添削担当教員任用の基準として、学士以上の学位を有すること、もしくはそれと同等の業績があることとしている。また能力基準として、科目に関わる分野の専門性を十分に保持しており、かつ科目概要や課題内容等を理解し、添削を通して十分な教育指導が可能な者としている。選考においては、当該学科の専任教員による面

接選考により採用の可否を決定している。

課題の添削にあたっては、教務委員会において作成された『添削・採点のしおり』および『シラバス』に記載されている「科目概要と到達目標」、「成績評価の方法」に沿って、過去の添削例や資料をもとに添削基準等の説明を行っている。また年に1～2回、添削担当教員を含む非常勤講師を対象とした講師会を実施しており、カリキュラムや授業運営、添削指導に関する研修も兼ねた情報交換を行っている。本学では教授方法の工夫や開発のため、通信教育課程に「FD委員会」を設置し、通信教育課程の学習指導に適した教員の資質・能力向上のためのFD研修を毎年2回実施しており、添削担当教員を含む非常勤講師の参加も認めている。研修内容は動画で記録されており、添削担当教員を含む未参加教員の視聴を強く推奨している。

添削担当教員の業務として、添削および質問回答を行っており、科目単位で非常勤講師として年間の委嘱を行っている。添削件数および質問件数に応じて手当を支払っており、添削の場合1単位（1課題）あたり1,200円、質問1件あたり600円を支払っている。なお、「大学通信教育実態調査（令和3年度／公益財団法人私立大学通信教育協会発行）」によると、他大学の通信教育課程の場合、添削1単位（1課題）あたり125円～2,000円、質問1件あたり0円～1,000円の手当となっている。また、添削担当教員においては、面接授業を担当している教員も多く、面接授業を担当している場合は1コマあたり9,800円の手当を支払っている。

(2) 多数の添削担当教員が行う数万件の課題・作品の添削について、科目担当教員による管理方法及び質保障について

令和4（2022）年度の添削担当教員785人のうち、芸術学科では86人、デザイン科では298人の添削担当教員を配置しており、添削指導による科目の総開講科目数280科目のうち、芸術学科は57科目、デザイン科は66科目となり、1科目あたり芸術学科では平均1～2人程度、デザイン科では平均4～5人程度の添削担当教員を配置している。なお、科目担当教員は1科目に対して1名の場合もあれば、科目内容等に応じて複数の科目担当教員を配置している科目もある。科目担当教員は（1）に記載の添削に関する説明・指導を添削担当教員に行うだけでなく、業務システムの構築により、他の添削担当教員が実施した添削内容を随時閲覧できる環境を整備しており、それらの点検及び添削担当教員への修正指示を含むフィードバックにより成績評価の厳格な運用を行っている。また、毎年度、現行カリキュラム・教育体系の再点検のため学生の履修状況、評価分布、授業アンケートの分析を行っており、科目毎に、提出件数が少ない科目、授業アンケートの結果においてネガティブな意見が多い科目、成績評価に偏りがある科目を抽出し、学科の専任教員とともに改善計画を立案している。これらの取り組みにより教育の質保証を行っている。

2. 公平・公正な手続きに基づく適切な入学者選抜の実施等を通じた厳格な定員管理について

令和6年6月11日開催の学長会及び通信教育部教授会において、下記の通り令和7年度通信教育部芸術学部選抜方法及び選抜基準が定められた。

○ 一般選抜

アドミッション・ポリシーの各項目について問う、小論文により選抜を行う。アドミッション・ポリシーに掲げられた「志と意欲」を選抜基準とし、厳格な定員管理を行う。

○ 指定校推薦選抜

本学部が指定する高等学校の長から推薦された者に対し、調査所等の書類審査を経たうえで、小論文により選抜を行う。アドミッション・ポリシーに掲げられた「志と意欲」を選抜基準とする。1年次入学のみ本選抜を行い、募集人員は若干名とする。

3. 収容定員超過の改善について

通信教育部芸術学部では令和7年度からの収容定員の変更に係る学則変更の認可申請を令和6年3月に行った。これにより入学定員は1,940人増加し、編入学定員は3,080人増加することとなる。この収容定員変更と厳格な定員管理を併せ行うことにより、収容定員超過を改善する計画である。同時に環境デザイン学科、文化コンテンツ創造学科の設置届出を行っており、これに伴う改組によりデザイン科は廃止とする。

【付帯事項】

- 入学者選抜の適切な実施等を通じ、収容定員超過の改善に努めること。(通信教育部芸術学部芸術教養学科)

上記2, 3の方法により、収容定員超過の改善に努める計画である。

【付帯事項】

- 京都芸術大学の既設学科等(通信教育部芸術学部美術科)の収容定員超過の改善に努めること。

上記2, 3の方法により、収容定員超過の改善に努める計画である。

## 附帯事項に対する履行状況等（7）

### 【附帯事項】

○収容定員充足率の超過が著しく高い。修業年限を超えた長期履修者等を含めた在学生への教育水準の低下を招かないよう、適切な対策を講じるとともに、公平・公正な手続きに基づく適切な入学者選抜の実施等を通じた厳格な定員管理を行うことにより、収容定員超過の改善に努めること。（通信教育部芸術学部芸術学科）

#### 1. 修業年限を超えた長期履修者等を含めた在学生への教育水準の低下を招かないための対策について

##### 1-1 長期履修制度等の取扱いについて

通信教育課程においては、社会人の学生が多数在籍しており、就労、家事、育児、介護などの様々な事情の中で学修を進めている。また、修業年限を超えて学修を進める学生を想定しており、『学生募集要項』の中で、修業年限4年だけでなく、在籍年限9年の案内も行っている。

平成23（2011）年度から平成27（2015）年度の入学者において、在籍年限となる9年間の通信教育部芸術学部卒業率は31.4%～35.3%となっている。特徴として、在籍期間が5年以上の卒業生が在籍期間内卒業生の35.2%～43.4%を占める点が挙げられる。本学通信教育課程では18歳から90歳代までが全国各地から芸術を学ぶ、「多地域多世代」による生涯教育を掲げており、このことが、多くの学生が、時間をかけて卒業まで学び続ける結果と結びついている。平成27（2015）年度の教育計画の重点目標として「学習継続率向上へ向けた、入学初年度の教育内容の見直しとテキスト科目単位修得率の向上」を掲げており、過去5年間（平成31（2019）～令和5（2023）年度）の平均学習継続率が84.5%と高い水準となっている現在も継続して取り組んでいる。これらの取り組みを経て、今後さらなる卒業率の向上を目指していく。

##### 1-2 学生の課題や作品等の添削について

#### （1）添削担当教員が添削を行う際の業務の流れ、採用条件、添削の質を担保するための採用前後の研修内容及び処遇について

添削担当教員任用の基準として、学士以上の学位を有すること、もしくはそれと同等の業績があることとしている。また能力基準として、科目に関わる分野の専門性を十分に保持しており、かつ科目概要や課題内容等を理解し、添削を通して十分な教育指導が可能な者としている。選考においては、当該学科の専任教員による面接選考により採用の可否を決定している。

課題の添削にあたっては、教務委員会において作成された『添削・採点のしおり』

および『シラバス』に記載されている「科目概要と到達目標」、「成績評価の方法」に沿って、過去の添削例や資料をもとに添削基準等の説明を行っている。また年に1～2回、添削担当教員を含む非常勤講師を対象とした講師会を実施しており、カリキュラムや授業運営、添削指導に関する研修も兼ねた情報交換を行っている。本学では教授方法の工夫や開発のため、通信教育課程に「FD委員会」を設置し、通信教育課程の学習指導に適した教員の資質・能力向上のためのFD研修を毎年2回実施しており、添削担当教員を含む非常勤講師の参加も認めている。研修内容は動画で記録されており、添削担当教員を含む未参加教員の視聴を強く推奨している。

添削担当教員の業務として、添削および質問回答を行っており、科目単位で非常勤講師として年間の委嘱を行っている。添削件数および質問件数に応じて手当を支払っており、添削の場合1単位（1課題）あたりレポート添削は1,200円、作品課題の添削は2,100円、質問1件あたり600円を支払っている。なお、「大学通信教育実態調査(令和3年度／公益財団法人私立大学通信教育協会発行)」によると、他大学の通信教育課程の場合、添削1単位（1課題）あたり125円～2,000円、質問1件あたり0円～1,000円の手当となっている。また、添削担当教員においては、面接授業を担当している教員も多く、面接授業を担当している場合は1コマあたり9,800円の手当を支払っている。

(2) 多数の添削担当教員が行う数万件の課題・作品の添削について、科目担当教員による管理方法及び質保障について

令和5(2023)年度の添削担当教員922人のうち、芸術学科では111人、デザイン科では394人の添削担当教員を配置しており、添削指導による科目の総開講科目数303科目のうち、芸術学科は51科目、デザイン科は62科目となり、1科目あたり芸術学科では平均2人程度、デザイン科では平均6～7人程度の添削担当教員を配置している。なお、科目担当教員は1科目に対して1名の場合もあれば、科目内容等に応じて複数の科目担当教員を配置している科目もある。科目担当教員は(1)に記載の添削に関する説明・指導を添削担当教員に行うだけでなく、業務システムの構築により、他の添削担当教員が実施した添削内容を随時閲覧できる環境を整備しており、それらの点検及び添削担当教員への修正指示を含むフィードバックにより成績評価の厳格な運用を行っている。また、毎年度、現行カリキュラム・教育体系の再点検のため学生の履修状況、評価分布、授業アンケートの分析を行っており、科目毎に、提出件数が少ない科目、授業アンケートの結果においてネガティブな意見が多い科目、成績評価に偏りがある科目を抽出し、学科の専任教員とともに改善計画を立案している。これらの取り組みにより教育の質保証を行っている。

## 7 その他全般的事項

<通信教育部芸術学部 環境デザイン学科>

### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど

(注)・1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

### (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況 通信教育部教務部長所管の教務委員会を設置している。</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む） 毎月1回開催し、教務部長を含め各学科から8名の教員が参加している。</p> <p>c 委員会の審議事項等 シラバスの見直し、学生便覧（学習ガイド・コースガイド・新入生ガイダンス資料）の見直し、レポートの提出状況の確認、評価に関する照会の対応、授業アンケートの確認、FD研修の企画・運営、学習支援施策の企画・運営</p> <p>実施状況</p> <p>a 実施内容 FD研修 授業アンケート 講師会</p> <p>b 実施方法 学内外から講師を招聘し講演またはワークショップ形式で実施 Webまたは紙で学生がアンケートに回答、集計結果を学生および教員へフィードバック 学科の専任教員から非常勤講師へのレクチャーおよび質疑応答</p> <p>c 開催状況（教員の参加状況含む） 令和6（2024）年度は3回開催し、専任教職員および非常勤講師を対象とし、延べ135名の専任教員が当日参加または後日録画動画を視聴した。 毎年全科目の授業について行っている。 年度当初に実施し、各学科の専任教員全員が参加している。</p> <p>d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況 研修を通して得た知見やノウハウを授業改善に活用。 教務委員会でとりまとめて集計を行い、アンケートから抽出された改善点等を学科全体で共有し、分析・改善を行う。すぐに着手できる事案であれば次開講期から改善し、大きな見直しが必要な場合は次年度での改善に向けて年度計画策定時に検討し、反映させる。 学科の教育方針の共有、課題の添削方法、SNSの運営方法など円滑な授業運営を行うために必要な情報の共有、問題点の確認などを行う。 学生に対する授業評価アンケートの実施状況</p> <p>a 実施の有無及び実施時期 教務委員会主管で毎年全科目の授業について、課題提出後または履修後に学生アンケートを実施している。</p> <p>b 教員や学生への公開状況、方法等 アンケート結果は教務委員会でとりまとめて集計を行い、毎年翌年度6月頃に学習サイト上で報告書として学生に公開する。また、年度計画策定時に内容を精査し、改善点についてシラバス等へ反映させる。</p>
---

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

## 2. 公平・公正な手続きに基づく適切な入学者選抜の実施等を通じた厳格な定員管理について

令和6年6月11日開催の学長会及び通信教育部教授会において、下記の通り令和7年度通信教育部芸術学部選抜方法及び選抜基準が定められた。

### ○ 一般選抜

アドミッション・ポリシーの各項目について問う、小論文により選抜を行う。アドミッション・ポリシーに掲げられた「志と意欲」を選抜基準とし、厳格な定員管理を行う。

### ○ 指定校推薦選抜

本学部が指定する高等学校の長から推薦された者に対し、調査所等の書類審査を経たうえで、小論文により選抜を行う。アドミッション・ポリシーに掲げられた「志と意欲」を選抜基準とする。1年次入学のみ本選抜を行い、募集人員は若干名とする。

## 3. 収容定員超過の改善について

通信教育部芸術学部では令和7年度からの収容定員の変更に係る学則変更の認可申請を令和6年3月に行った。これにより入学定員は1,940人増加し、編入学定員は3,080人増加することとなった。この収容定員変更と厳格な定員管理を併せ行うことにより、収容定員超過を改善する。同時に環境デザイン学科、文化コンテンツ創造学科を設置、これに伴う改組によりデザイン科は廃止とする。

以上

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

京都芸術大学は創設以来、芸術と文化による日本の再生、またそれを通じた世界平和への貢献という使命を追求してきた。

環境デザイン学科では、建築、インテリア、外構、公共スペース、庭園など、人間の活動する環境を、それぞれの機能に応じて具体的な空間構造としてデザインするための理論と実践方法を習得させることを目的とし、環境デザインの歴史的な理解を深めて空間設計のための基礎的訓練を積むことは勿論だが、さらに建築士資格に関連する各種法規の趣旨を十分に酌むとともに、人権の尊重や自然環境への配慮もゆるがせにせず、社会的責任を自覚して人類の福祉に寄与できるデザイナーを養成することを目的に設置した。この目的を達成するために以下の取り組みを行っている。

a 入学者確保

(1) ホームページなどによる情報発信

オフィシャルホームページにおいて (<https://www.kyotoart.ac.jp/t/>) 通信教育部の教育内容や特色等を広く発信することももちろん、環境デザイン学科に関わる学問領域(建築・空間演出デザイン・ランドスケープデザイン)に関するブログを計34本公開。加えて環境デザイン学科の魅力と特徴を端的に伝える特設サイト (<https://www.kyoto-art.ac.jp/t/lp/environment/>) を公開し、情報発信に努めた。

また、志願者の問い合わせに緻密に対応できるよう、年間を通じてフリーダイヤルによる電話対応や、年間5,179件に及ぶメールでの問い合わせに回答した。加えて、AI機能を搭載したチャットボットを設置するなど、入学における疑問点や不安点の解消に対応に努めた。

b 入学者選抜

書類選考、小論文による選抜を行った。入学選考において「志望動機」欄に300字以上600字以内の文章を課しており、これを小論文としている。小論文の採点基準及び合否基準について、採点基準は、アドミッション・ポリシーが理解されており、本学入学に対する熱意及び意欲が記述されているかを基準とする。その際、アドミッション・ポリシーの3要素「問題意識」「学ぼうとする真摯な姿勢」「みずから学ぶ」が表現できているかどうかをそれぞれ採点することで、特定の受験者の優遇や特定の属性による差別的な取扱いが行われないものとする。合否基準については、上記3要素を満たしているかを基準とし、合否を決定する。

c 入学生への履修指導

4月に2回、5月に1回「新入生ガイダンス」をコースごとに実施し、履修指導をおこなっている。4月は京都瓜生山キャンパスでの入学式と同日に対面形式で、また東日本在住の新入生も多いことから、東京・外苑キャンパスでも対面とオンライン形式で実施。多忙な社会人のニーズに応えるため、4月ガイダンスの録画配信および5月にはオンライン形式でガイダンスを実施し、新入生の多くが参加している。また、学習がスタートした後も平日夜や土日に「オフィスアワーや学習相談会」を開催し、履修相談ができる環境を整えている。2024年度からは「卒業生コーチ制度」を導入し、学生と教員・学生同士がオンライン上で交流する「airUコミュニティ」サイトで在学生の相談に卒業生コーチが答えるコーナーを設置するなど、サポートを実施している。

自己点検・評価報告書

a 公表(予定)時期

- ・令和11年3月31日 公表予定

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開予定(令和11年3月末を予定)

認証評価を受ける計画

令和6年度に認証評価(日本高等教育評価機構)の評価を受け、令和7年3月付けで「日本高等教育評価機構が定める大学評価基準を満たしている」と認定された。認定機関は令和6(2024)年4月1日より令和13年3月31日までの7年間となる。日本高等教育評価機構による評価報告書ならびに自己点検報告書については、本学ホームページ上に公開されている。

(注)・設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

設置計画履行状況報告書(令和7年度)

a 公表予定の有無 [  有 ・  無 ]

aで「有」の場合

b 公表(予定)時期 [  調査結果公表後1ヶ月以内 ・  公表後2~3ヶ月以内 ・  公表後3ヶ月以降 ]

c 公表方法 [  ウェブサイトへの掲載 ・  その他( ) ]

aで公表「無」の場合

d 公表しない理由 [ ]

設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト上に公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。